

看 護 学 分 野

発達過程に共通する看護実践

授業科目	基礎薬理学		責任者	土屋 裕義	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
			調整者	平尾 温司	時間数	15	受講セメスター	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	薬物療法と看護を理解するために必要な基礎的な薬理学について理解する。							
	到達目標	1. 薬物動態について理解する。 2. 薬力学について理解する。 3. 医薬品の開発について理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		薬理学序論	[講義] 薬物治療の目的について学習する。 薬物療法に重要な看護師の役割について学習する。					土屋	
2		薬理学総論 (1)	[講義] 薬理作用のメカニズムについて学習する。 薬物の吸収・分布について学習する。					土屋	
3		薬理学総論 (2)	[講義] 薬物の代謝・排泄について学習する。					土屋	
4		薬理学各論 (1)	[講義] 抗生物質・抗ウイルス薬について学習する。					土屋	
5		薬理学各論 (2)	[講義] 神経系に作用する薬について学習する。					土屋	
6		薬理学各論 (3)	[講義] 循環器系に作用する薬について学習する。					土屋	
7		薬理学各論 (4)	[講義] 上記2カテゴリー以外の薬について学習する。					土屋	
8		評価						土屋	
教科書	「薬がみえる」(vol. 1)」 医療情報科学研究所編集、メディックメディア 2021年(第2版) ※初回授業時に購入指針を説明する。				参考書等	「NEW 薬理学」(改訂第7版) 田中千賀子ら編、南江堂、 2017年 「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 第14版」 吉岡充弘他著、医学書院、2018年 「薬がみえる」(vol. 2、3) 医療情報科学研究所編集、 メディックメディア 2015年、2016年			
履修条件	なし				評価方法	1. 課題レポートあるいは筆記試験 (100%) 2. 学習態度(減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	薬物療法時の看護を考える上で基礎となる科目である。授業時に口頭による解答を求める。 予習：教科書、参考書の関連部分に目を通す。復習：事後学習を行う。予習復習時間は23時間以上。 初回参加時には、身の回りの医薬品にどのようなものがあるか、ニュースでは医薬品に関してどのようなことが報じられているか、調べておくこと。								

授業科目	臨床薬理学		責任者 目 調整者内	相澤 健一	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				倉科 智行	時間数	1 5	受講セメスター	2 年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	薬物療法と看護を理解するために必要な臨床的な薬理学について理解する。							
	到達目標	1. 医薬品の安全な使用（効果的な活用と薬害の防止）について理解する。 2. 処方箋の意味を理解する。 3. 臨床で働く医師や薬剤師の役割について理解する。							
回数 (1 回 9 0 分)		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員
1		薬物療法の意義		〔講義〕薬物療法の理論、意義、評価法および臨床研究・薬害の歴史、臨床試験の意義と倫理性について学習する。					今井（靖）
2		薬の吸収・分布・代謝・排泄		〔講義〕薬物の体内動態、治療薬物モニタリング（TDM）の必要性、方法について学習する。					桂田
3		薬物相互作用		〔講義〕薬物相互作用について学習する。					澤城
4		病態に応じた薬物治療①		〔講義〕妊産婦における薬物投与方法について学習する。					相澤
5		病態に応じた薬物治療②		〔講義〕腎障害患者、肝障害患者における薬物投与方法について学習する。					今井（利）
6		処方箋と薬剤師業務		〔講義〕処方箋の見方や薬剤師の業務について学習する。					須藤
7		薬物療法と倫理性		〔講義〕小児、高齢者、授乳婦における薬物投与方法と倫理性について学習する。					相澤
8		試験							相澤
教科書	指定しない				参考書等	指定しない			
履修条件	なし				評価方法	1. 筆記試験（80%） 2. 学習態度（20%） 【評価のフィードバック方法】 学生へ講評する			
備考	現代の医療には薬物療法が不可欠である。看護を行う上で、最低限知っておきたい薬物療法の理論・倫理性を学習し、実際の臨床の場で薬物療法がどのように実施されているのか、何が問題でどんな点に気をつければよいのかを知るための講義である。受講にあたっては、講義前に教科書等により予習し、講義終了後、教科書や配布資料等を用いて復習を行うこと。予習復習時間は23時間以上。								

授業科目	臨床検査学		科目責任者	倉科 智行		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
						時間数	15	受講セメスター	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	診療場面で一般的に行われる検査の役割および診断・治療との関係性を理解し、対象者の看護援助の原理原則を学習する。								
	到達目標	1. 疾病診断に用いられる基本的な検査法を理解する。 2. 疾病診断に用いられる基本的な検査機器・用具を理解する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1		臨床検査の役割と意義 検体の取り扱いと感染		〔講義〕 臨床検査の役割と意義を学習する。 検体の取り扱い方と医療者の感染予防を学習する。					倉科	
2		検体検査		〔講義〕 一般、生化学、血液、微生物の検査と結果の評価法を学習する。					倉科	
3		心電図検査		〔講義〕 心電図検査の評価法を学習する。					倉科	
4		超音波検査（1）		〔講義〕 超音波の結果の評価法を学習する。腹部超音波の所見を中心に学習する。					鯉渕	
5		超音波検査（2）		〔講義〕 超音波の結果の評価法を学習する。腹部超音波以外の超音波の所見を中心に学習する。					鯉渕	
6		放射線検査（1）		〔講義〕 X-P、MRI、CT、血管造影の結果の評価法を学習する。					木島	
7		放射線検査（2）		〔講義〕 X-P、MRI、CT、血管造影の結果の評価法を学習する。					篠原	
8		評価							倉科	
教科書	「看護のための臨床検査」 浅野嘉延著、南山堂、2015年				参考書等	なし				
履修条件	なし				評価方法	1. 試験（80%） 2. 小テスト（20%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する				
備考	予習として前学期に学ぶ「病態学各論」における検査についての項目を確認し講義に臨み、課題を念頭に置いて復習を行うこと。予習復習の目安として合計23時間以上程度を要する。									

授業科目	病態学各論		科目責任者	倉科 智行		単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
						時間数	30	受講セメスター	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	機能障害を引き起こす疾患と治療、ならびにその発生要因について理解する。								
	到達目標	1. 各機能障害を引き起こす疾患を理解する。 2. 疾患に伴う治療の特徴を理解する。 3. 疾患・治療、検査と機能障害の発生との関連を理解する。								
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1	循環器疾患 1	〔講義〕 循環器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
2	循環器疾患 2	〔講義〕 循環器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
3	呼吸器疾患	〔講義〕 呼吸器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
4	腎疾患	〔講義〕 腎疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
5	血液疾患	〔講義〕 血液の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
6	消化器疾患 1	〔講義〕 消化器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
7	消化器疾患 2	〔講義〕 消化器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
8	神経疾患 1	〔講義〕 神経疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
9	神経疾患 2	〔講義〕 神経疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
10	内分泌疾患	〔講義〕 内分泌疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
11	代謝疾患 1	〔講義〕 代謝疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
12	代謝疾患 2	〔講義〕 代謝疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
13	がん	〔講義〕 がんの主要病態・症状の発現のしくみを学習する。						倉科		
14	心電図	〔講義〕 心電図を学習する。						倉科		
15	試験							倉科		
教科書	「はじめの一步の病態・疾患学」林洋著、羊土社、2018年 「なるほどなっとく！臨床検査」浅野嘉延著、南山堂、2021年					参考書等	「なるほどなっとく！内科学」浅野嘉延編著、南山堂、2016年 「看護のための臨床病態学」浅野嘉延著、南山堂、2017年			
履修条件	なし					評価方法	1. 試験（80%） 2. 小テスト（20%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	主要疾患の病態生理を理解していることが、よりよい看護実践の根幹となる。受講にあたっては、教科書での予習・各回の講義の復習を46時間以上行うこと。「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「病態学概論」の復習をして講義に臨み、理解を揺るぎないものにして欲しい。									

授業科目	微生物学		責任者 目	加藤 大智	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
			調整者 内	倉科 智行	時間数	15	受講セメスター	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	微生物の特徴とヒトに重要な影響を与える微生物について学習する。							
	到達目標	1. 微生物の特徴と分類を理解する。 2. ヒトに重要な影響を与える微生物の特徴を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		微生物学 総論	[講義] 微生物および感染症全体の概念を学習する。また、感染経路および感染時の免疫反応（ワクチンを含む）について学習する。					村田	
2		細菌学 総論	[講義] 細菌（バクテリア）の構造・生理について学習する。					崔	
3		細菌学 各論	[講義] 重要な病原細菌の個々について概要を学習する。					崔	
4		ウイルス学 総論	[講義] ウイルスの概念と構造・増殖について学習する。					村田	
5		ウイルス学 各論	[講義] 重要な病原ウイルスの個々について概要を学習する。					村田	
6		寄生虫学	[講義] 寄生虫の概念・分類および重要な寄生虫について概要を学習する。					加藤	
7		滅菌・消毒と院内感染	[講義] 滅菌・消毒の方法について学習する。さらに、院内感染対策を手指消毒・マスク着用を中心に学習する。					崔	
8		試験						崔・村田・加藤	
教科書	特に指定はしない。毎回資料を配布する。				参考書等	「コンパクト微生物学改訂第5版」、小熊恵二・堀田博 編集、南江堂、2021年 「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」改訂3版、藤本秀士 編集、南山堂、2017年 「イラストでわかる微生物学超入門第2版」齊藤光正 編集、南山堂、2021年			
履修条件	なし				評価方法	1. 筆記試験（100%） 2. 学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	微生物それぞれの特徴を理解し、微生物が引き起こす感染症の全体像を把握する。また、感染に対する防御策を学習する。治療、看護を考えるための基礎となる科目である。教科書を用いて予習復習を十分に行い、講義に臨むこと。予習復習時間は23時間以上。								

授業科目	グループ・アプローチ	科目責任者	永井 優子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	1 5	受講セメスター	2 年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	グループの特徴とグループ内で生じるプロセスやダイナミクスを理解し、看護実践の基盤となるグループ・アプローチの基本を学習する。						
	到達目標	1. グループの特徴について説明することができる。 2. 小グループにおけるプロセスおよびダイナミクスの基本を説明することができる。 3. 社会的場面(対人的場面)における個人の心理や行動の基本を説明することができる。 4. 保健医療福祉に関連のあるグループ・アプローチの概略を説明することができる。						
回数 (1 回 9 0 分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		グループとは	〔講義〕グループの定義、集団の機能と構造について学習する。				永井	
2		集団らしさの過程	〔講義〕グループの形成と発達について学習する。				永井	
3		グループ内の影響過程	〔講義〕同調と逸脱、モデリング、社会的促進、グループの分極化、マスコミの影響について学習する。				永井	
4		グループの生産性	〔講義〕小グループのパフォーマンスに影響する要因と社会的手抜きについて学習する。				永井	
5		リーダーシップとメンバーシップ	〔講義〕リーダーシップ理論、リーダーシップの 4 要因、リーダーシップの原理、メンバーシップの特徴について学習する。				永井	
6		グループの意思決定あるいは合意形成	〔講義〕グループの意思決定と個人の意思決定との相違、グループ討議、グループ思考、交渉、連合形成、社会的ジレンマ、共通情報バイアス、グループ極化、グループで生じる浅慮について学習する。				永井	
7		グループ・アプローチと看護	〔講義〕看護におけるグループ・アプローチの概略について学習する。				永井	
8		試験					永井	
教科書	指定しない			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (8 0 %) 2. ムードルの課題レポート (2 0 %) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本科目は、日常生活におけるあらゆるグループに生じる現象に関する理論、およびそれらに基づく有効なアプローチの基本的な考え方に関するものであり、実習科目を含む多くの科目に関連している。各回で提示される予習と復習をあわせて 2 3 時間以上行う必要がある。							

授業科目	疫学		科目責任者	関山 友子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	30	受講セメスター	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	疫学とは何か、保健問題解決のためになぜ必要なのかを理解し、その方法論を習得する。また、健康指標、保健統計関連指標について理解する。							
	到達目標	1. 疫学の定義、公衆衛生との関連を理解する。 2. 記述疫学、疫学研究方法、疫学指標を理解する。 3. 感染症、食中毒に関わる問題の解決や疾病対策と疫学との関連について理解する。 4. 看護・保健活動に必要な保健・看護情報を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		疫学とは何か	[講義] 疫学の定義、疫学の歴史、疫学史上のエピソードなどを学習する。					関山	
2～4		健康と疾病異常の測定	[講義] 健康と疾病の概念、代表的な疫学指標（罹患率、有病率、死亡率、致命率、生存率など）を学習する。					関山	
5・6		疫学研究のデザイン	[講義] 症例対照研究、コホート研究、介入研究などの疫学研究のデザインを学習する。					江角	
7		疫学研究における偏りとその制御	[講義] 疫学研究において生ずる誤差や偏りにはどのようなものがあるか、なぜ起こるのか、それらを取り除くにはどうすればよいのかを学習する。					関山	
8		因果関係の判定と疫学要因	[講義] 因果関係を判定するための基本的な考え方と条件、疫学要因を学習する。					関山	
9～11		保健統計	[講義] 人口動態統計、人口動態統計、疾病統計、保健行政統計などのとり方とその内容を学習する。					関山	
12		サーベイランスと疾病登録	[講義] サーベイランスと疾病登録の定義、目的、内容などを学習する。					関山	
13		スクリーニング	[講義] スクリーニングの定義、目的、意義、実施上の原則、評価方法などを学習する。					関山	
14		疫学研究と倫理	[講義] 疫学研究における倫理的な問題、対象者選択の問題、介入研究における介入の妥当性などについて学習する。					関山	
15		試験						関山	
教科書	指定しない				参考書等	「看護学生のための疫学・保健統計」浅野嘉延、南山堂、2018年 「基本からわかる疫学入門（第3版）」大木秀一、医歯薬出版、2017年			
履修条件	なし				評価方法	1. 筆記試験（85％） 2. 学習態度（15％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	疫学は、保健問題を解決するための基本的な概念や方法論を提供する学問である。講義前に教科書を読んで予習をしておくことが望ましい。また、講義中は、「統計学」や「統計学演習」において学習した内容と結びつけながら理解する必要がある。教科書や配布資料等で十分復習して定期試験に臨むこと。予習復習時間は46時間以上。								

授業科目	実践基礎看護学概論Ⅱ		科目責任者	永井 優子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	1 5	受講セメスター	2 年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	精神の健康について身体・精神・社会的に理解し、精神の健康を促進する看護活動の概要を学習する。							
	到達目標	1. 精神の健康のとらえ方について理解する。 2. 精神の健康に影響する要因について理解する。 3. 精神看護の役割と機能を理解する。 4. 精神看護学で用いる理論について概略を理解する。 5. 精神の健康に関する資源・法制度の概要について理解する。 6. 精神の健康の現状と精神の健康の維持増進について理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題			学習内容ならびに方法				担当教員
1		精神の健康とは			〔講義〕 精神の健康の身体・精神・社会的とらえ方について学習する。				永井
2		精神の健康の歴史			〔講義〕 精神の健康に関するとらえ方の歴史と精神障害者の精神障害者のケアに関する歴史について学習する。				永井
3		精神の健康と影響要因			〔講義〕 精神の健康に影響する要因について学習する。				永井
4・5		精神の健康を守るためのシステム			〔講義〕 精神の健康の関連する法律、制度、社会資源について概略を学習する。				永井
6		精神の健康の現状			〔講義〕 わが国および世界における精神の健康の現状の概要を学習する。				永井
7		精神看護とは			〔講義〕 精神看護の役割と機能について学習する。				永井
8		精神の健康の維持・増進			〔講義〕 精神の健康を維持・増進に活用する理論の概略を学習する。				永井
9		試験							永井
教科書	1. 「国民衛生の動向2021/2022」編集・発行：厚生統計協会、2021年 2. 精神看護に関する教科書(特に指定しない) 初回授業で配付する書籍リストの中から、自分が使いやすいものを1冊選んで購入する。 3. 「障害者総合支援法とは 改訂第3版」丸山晃監修、東京都社会福祉協議会、2020年				参考書等	1. 我が国の精神保健福祉(精神保健福祉ハンドブック)」日本公衆衛生協会、最新版 2. 参考書は講義内容に応じて紹介する。			
履修条件	なし				評価方法	1. 筆記試験(70%) 2. 課題・レポート(20%) 3. e-learning の学習状況(10%) 4. 授業の参加状況と学習態度(減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	この科目は、「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」の履修条件となっている。また、「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「生涯発達看護論」「社会福祉論」「実践基礎看護学概論Ⅰ」などの既習科目との関連が深く、これらを復習しておくことが予習となる。精神保健医療福祉の法律や体制は移行期にあり、常に最新の資料であることを確認し、各回の関連する教科書を事前に読んで授業に臨み、受講後にも再読することを勧める。予習および復習はe-learning の課題に取り組み、授業で紹介する website を参考にするとよい。以上について23時間以上の予習・復習が必要である。精神看護学を学ぶために大切なことは、さまざまな文化や社会で生きる人について関心を寄せることである。古今東西の映画や演劇、小説などはもちろん、音楽や絵画、彫刻などの芸術に親しんで、感性を磨くとともに、現在の社会情勢、医療状況等に関する報道についても、関心を持つことを勧める。								

授業科目	実践基礎看護学概論Ⅲ		科目責任者	春山 早苗	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	30	受講セメスター	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護の知識やあり方を習得する。							
	到達 目標	1. 公衆衛生の理念・目標を追求する看護の役割・機能を理解する。 2. 公衆衛生の理念・目標を追求する看護の対象、方法論を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員
1	公衆衛生看護とは 公衆衛生看護に関わる 概念	〔講義〕 公衆衛生看護とは何か、対象や場を学習するとともに、健康と基本的権利、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションなど公衆衛生看護に関わる概念について学習する。						春山	
2	公衆衛生看護の目的と 原則	〔講義〕 公衆衛生看護の目的、公衆衛生看護活動の原則、地域保健法下における保健師の役割を学習する。						春山	
3	地区活動のプロセス(1)	〔講義〕 地域における生活集団を対象とした看護のあり方と方法について学習する。 ・対象集団のとらえ方						春山	
4	地区活動のプロセス(2) 家族を単位とした援助 方法	〔講義〕 対象の家庭や生活の場において生活の質を高めることを目指して行われる看護のあり方について学習する。 ・地域診断、家庭訪問						春山	
5	行政サービスにおける 看護活動の展開方法	〔講義〕 地区活動と保健事業、保健事業計画づくりについて学習する。						春山	
6	予防的意義の高い看護 活動	〔講義〕 健康生活に関わる問題の予防と健康管理に関わる看護活動の意義と展開方法について学習する。						春山	
7・8	公衆衛生看護の歴史	〔講義〕 公衆衛生看護活動の始まりと歴史的な発展を学習する。						島田	
9	公衆衛生看護活動の展 開方法	〔演習〕 事例を用いて公衆衛生看護活動の目的や活動方法の学習を深める。数グループに分かれてセミナー形式で行う。						青木・春山・塚本・ 島田・市川・江角・ 舟橋	
10	地域資源利用に関わる 援助方法	〔講義〕 地域資源利用に関わる援助方法について学習する。地域におけるヘルスケアチームづくり、地域資源の組織化について学習する。						春山	
11	ヘルスケアシステムづ くり1	〔講義〕 在宅療養者支援体制づくりにおける看護職の役割と活動方法について学習する。						江角	
12	ヘルスケアシステムづ くり2	〔講義〕 住民との協働による地区活動の展開と地域づくり、ヘルスケアシステムづくりについて学習する。						春山	
13	公衆衛生の目標を追求 する看護職の活動の場 と役割1	〔講義〕 学校生活集団を理解し、学校保健システムにおける看護職の役割について学習する。						青木	
14	公衆衛生の目標を追求 する看護職の活動の場 と役割2	〔講義〕 職場生活集団を理解し、産業保健システムにおける看護職の役割を学習する。						塚本	
15	試験							春山	
教科書	「最新公衆衛生看護学 第3版 2022年版 総論」宮崎美砂子、北山三津子他編、日本看護協会出版会、2022年				参考書等	「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第4版」中村裕美子他著、医学書院、2020年 「最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論 第4版」金川克子編、「2 公衆衛生看護支援技術 第4版」村嶋幸代編、メヂカルフレンド社、2015年			
履修条件	なし				評価方法	1. 試験(80%) 2. 記録物の提出(20%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	公衆衛生看護学の概論について、主に行政に所属する保健師の活動を素材に教授する。わが国のヘルスケアシステムについて学習した「保健医療福祉システム論」や「社会福祉論」をよく復習するとともに、教科書により予習して臨むこと。授業後は配付資料やノートで復習して学習を進めていくこと。予習復習時間は46時間以上。								

授業科目	看護技術論Ⅲ		科目責任者	内堀 真弓		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	15	受講セメスター	2年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	診断・検査・治療に関連した生活援助としての看護実践に必要な基本的知識と科学的根拠に基づいた原理原則について学習する。								
	到達目標	1. 診断・検査・治療における看護の役割と責務を理解する。 2. 診断・検査・治療に伴う看護技術および影響を受ける生活行動の看護技術を理解する。								
回数 (1回90分)		学習課題			学習内容ならびに方法				担当教員	
1		・診察・検査における看護の役割と責務 ・感染予防と滅菌物の取り扱いでの基本技術（1）			〔講義〕 診断・検査の意義・目的および安全・安楽かつ確実な診断・検査の実施に求められる看護の役割・責務について学ぶ。 ・感染成立のメカニズム、感染予防のプロセスおよび滅菌物の取扱いの基本を学ぶ。				内堀	
2		感染予防と滅菌物の取り扱いでの基本技術（2）			〔講義〕 導尿（膀胱留置カテーテル）に必要な看護技術を学ぶ。				内堀	
3		感染予防と滅菌物の取り扱いでの基本技術（3）			〔講義〕 静脈血採血に必要な看護技術を学ぶ。				里光	
4		健康障害のある人の診断・治療のための看護技術（1）			〔講義〕 薬物療法の種類と目的および安全・安楽かつ確実な薬物療法（経口・口腔内与薬、直腸内与薬等）の実施に求められる看護技術を学ぶ。				小原	
5		健康障害のある人の診断・治療のための看護技術（2）			〔講義〕 安全・安楽かつ確実な薬物療法（点滴静注内注射）の実施に求められる看護技術を学ぶ。				小原	
6		健康障害のある人の診断・治療のための看護技術（3）			〔講義〕 安全・安楽かつ確実な薬物療法（筋肉内注射、皮下注射および皮内注射）と輸血の実施に求められる看護技術を学ぶ。				小原	
7		呼吸機能障害のある人への看護技術			〔講義〕 呼吸機能障害のある人を理解し、酸素療法、吸引および吸入の目的および安全・安楽かつ確実な実施に求められる看護技術を学ぶ。				内堀/湯山	
8		試験							内堀	
教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」志自岐康子ほか編、メディカ出版、2017年				参考書等	「基礎看護技術第8版」阿曾洋子、井上智子、伊部亜希、医学書院、2019年 その他、必要時提示する				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」				評価方法	1. 筆記試験（90%） 2. 学習態度（10%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する				
備考	看護技術論Ⅲは、看護技術演習Ⅲと連動する科目構成となっている。教科書及び配付資料を活用し事前学習・事後学習はしっかり行うこと。看護職を目指す者の基本的姿勢として学習態度を重要視する。予習復習時間は、23時間以上を必要とする。									

授業科目	看護技術演習Ⅲ		科目責任者	内堀 真弓		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	30	受講セメスター	2学年前学期	
学習目的と到達目標	目的	看護技術論Ⅲで学んだ知識を基盤として、診療場面で一般的に行われる治療や検査に伴う看護技術の基本を演習を通して習得する。								
	到達目標	1. 診断・検査・治療時の安全、確実に安楽な看護技術を習得する。 2. 診断・検査・治療に伴い影響を受ける生活行動の看護技術を習得する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1		滅菌物の取り扱い(1)		[演習] 診断・治療過程での感染予防の看護技術の中から、無菌操作の基本的な技術を学ぶ。 ①鑷子・滅菌パック・滅菌包の取扱い、②滅菌ガウン・滅菌手袋の装着					内堀 基礎看護学 全教員	
2・3		滅菌物の取り扱い(2)		[演習] 診断・治療過程での感染予防の看護技術の中から、無菌操作を基にした閉鎖式膀胱留置カテーテルセットの取り扱いの方法を学ぶ。 ①膀胱留置カテーテル挿入時の対象者の体位、②無菌操作による留置カテーテルの挿入と固定、③蓄尿バックの取り付け、④留置カテーテルの抜去					内堀 基礎看護学 全教員	
4・5		検体検査時の看護技術		[演習] 検体検査時の看護技術の中から、静脈血採血の方法を学ぶ。 ①真空管採血を含む採血部位の確認、②無菌操作による採血方法					里光 基礎看護学 全教員	
6・7		薬物療法時の看護技術(1)		[演習] 薬物療法時の看護技術の中から、点滴静脈内注射の方法を学ぶ。 ①無菌操作による注射器・注射針の取り扱い、②注射部位の確認					小原 基礎看護学 全教員	
8・9		薬物療法時の看護技術(2)		[演習] 薬物療法時の看護技術の中から、皮下・筋肉内注射の方法を学ぶ。 ①無菌操作による注射器・注射針の取り扱い、②注射部位の確認					小原 基礎看護学 全教員	
10・11		呼吸機能障害時の看護技術		[演習] 呼吸機能障害時の看護技術の中から、酸素吸入・口腔・鼻腔の一時的吸引の方法を学ぶ。 ①口腔内・鼻腔内の吸引方法、②酸素療法の種類と酸素ボンベの取り扱い					内堀/湯山 基礎看護学 全教員	
12・13・14		診療場面で一般的に行われる治療や検査に伴う看護技術のまとめ		[演習] 診療場面で一般的に行われる治療や検査に伴う看護技術のうち、設定された学習課題に関する技術の習得状況を確認し、確実な技術を習得する。					内堀 基礎看護学 全教員	
15		試験							内堀 基礎看護学 全教員	
教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」志自岐康子ほか編、メディカ出版、2017年				参考書等	「基礎看護技術第8版」阿曾洋子、井上智子、伊部亜希、医学書院、2019年 その他、必要時提示する				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」				評価方法	1. 技術試験(50%) 2. 事前・事後課題および演習参加態度(50%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	看護技術演習Ⅲは看護技術論Ⅲと連動する科目構成となっている。手順や留意点、及び自分の身体の動かし方のイメージを持ち主体的に演習に臨むことが重要となる。看護技術論Ⅲの講義内容をよく復習し、かつWEB教材や書籍を活用して毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進めること。スキルズラボ入室時は、ユニフォーム・名札・ナースシューズを着用し、常に身だしなみを整えること。予習復習時間は、12時間以上を必要とする。									

授業科目	看護過程演習		科目責任者	小原 泉	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	2年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	看護過程を用いた看護展開の実際を学習する。							
	到達目標	1. 看護過程の意義と方法を説明できる。 2. 事例に対する看護過程の各段階を説明できる。 3. 事例に対する看護展開の実際を説明できる。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		看護過程の意義と方法	[講義] 看護過程とは何か、看護過程の展開の基盤となる考え方、問題解決過程およびクリティカルシンキングについて学習する。					小原	
2・3		看護過程の各段階（1）	[講義、演習] 看護過程の各段階① アセスメント（情報の収集と分析）の方法を学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
4		看護過程の各段階（2）	[講義、演習] 看護過程の各段階② アセスメント（関連図と全体像）の方法を学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
5・6		看護過程の各段階（3）	[講義、演習] 看護過程の各段階③ 看護問題の明確化の方法を学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
7・8		看護過程の各段階（4）	[講義、演習] 看護過程の各段階④および⑤ 看護計画実施および評価の方法を学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
9・10		看護過程の実際（1）	[演習] 看護過程を用いた看護展開の実際についてシミュレーション演習により学習する。					内堀 基礎看護学 全教員	
11・12		看護過程の実際（2）	[演習] 看護過程を用いた看護展開の実際についてシミュレーション演習により学習する。					内堀 基礎看護学 全教員	
13～14		看護過程の実際（3）	[演習] 看護過程を用いた看護展開の実際についてシミュレーション演習により学習する。					内堀 基礎看護学 全教員	
15		評価						小原	
教科書	なし			参考書等	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」 茂野香おるほか著、医学書院、2021年 「ナースングラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」 松尾ミヨ子ほか著、メディカ出版、2022年				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」			評価方法	1. 事前・事後課題レポート（80%） 2. 授業参加態度（20%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	看護過程は、看護を实践する上で不可欠な方法論である。人体の構造・機能や病態学など既習科目を復習しながら事前・事後の課題に緻密に取り組み、看護過程を用いた看護展開について日常生活援助実習の前に十分に理解できるように学習を進めていくこと。予習や復習時間は、12時間以上を必要とする。								

授業科目	精神看護方法		科目責任者	半澤 節子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	精神の健康を増進し、精神の健康障害からの回復を促進する看護の具体的な方法について学習する。							
	到達目標	1. 精神疾患・障害の回復段階に応じた看護活動について理解する。 2. 主な精神疾患・障害、問題行動の特徴と看護過程について理解する。 3. 精神科領域の治療と看護活動について理解する。 4. 精神科における医療安全と治療的環境と看護活動について理解する。 5. 精神障害者の人権を理解する。 6. 入院治療の可能性における看護活動を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～3		精神疾患・障害の回復段階に応じた看護活動	【講義】当事者の希望に基づいた看護過程の展開について、急性期、回復期、慢性期という回復過程の特徴、リハビリテーションの特徴、就労支援の現状と課題を学習する。					半澤	
4・5		精神科領域の治療と看護活動	【講義】薬物療法の特徴と薬物療法を受けている人の看護について、心理社会的療法、集団療法（認知行動療法など）の特徴と看護職の役割を学習する。					永井	
6		精神疾患・障害の受容過程	【講義】精神疾患・障害の受容過程における病識、薬物療法の必要性の理解、長期予後などを学習する。					半澤	
7・8		精神科における医療安全と治療的環境と看護活動	【講義】精神科における医療安全と治療的環境リスクとして、攻撃的な行動・暴力および自殺・自傷行為などの問題行動のアセスメントと危機介入の看護について学習する。					永井	
9～11		主な精神疾患・障害、問題行動の特徴と看護過程	【講義】主な精神疾患（不安障害・ストレス関連障害・身体表現性障害、総合失調症、気分障害、物質関連障害、器質障害）の経過、治療と看護について学習する。					永井	
12		集団を対象とした看護および感情、認知および自我に焦点を当てた看護	【講義】集団力動の基礎および集団を対象とした看護方法、感情を表出し、コントロールするための援助、認知への働きかけと自我を強化するための援助方法について学習する。					永井	
13		入院治療の可能性における看護活動	【講義】精神疾患・障害を持つ人に対して入院治療の必要性、入院患者の特徴、入院形態、病棟環境の特徴、行動制限とリスクマネジメント、患者の人権擁護、チーム医療について学習する。					路川	
14		精神障害者の人権擁護と保護者の義務	【講義】患者の権利を擁護しつつも、適正な精神科医療サービス及び福祉サービスを提供するための必要な法制度、精神保健福祉法における保護者の義務の今日的課題、精神科医療が必要な精神障害者が係る課題を学習する。					半澤	
15		試験						半澤	
教科書	指定しない			参考書等	授業の中で紹介する。				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅱ」			評価方法	1. 筆記試験（80％） 2. e-learning の学習状況（20％） 3. 学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	本科目は「地域精神看護方法」の内容と相互に関連して進行し、「精神保健看護実習」につながる基礎的な知識を整理するための重要な科目となる。事前準備（予習）では「実践基礎看護学概論Ⅱ」で学修した関連の知識の確認、事後の展開（復習）では授業のレジメや関連の資料を見直し、理解が不十分な箇所は教科書の関連の事項を読むこと、授業で紹介する website を参考にすることなど、必要とされる知識を整理しておくこと。また、予習および復習にあたり、e-learning の課題に取り組み、理解の程度を確認することを勧める。予習復習時間は46時間以上が必要である。								

授業科目	地域精神看護方法		科目責任者	永井 優子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	精神の健康を増進し、精神の健康障害から回復を促進する場と看護の具体的な方法について学習する。							
	到達目標	1. 精神の健康の増進および回復を促進する場について理解する。 2. 精神障害者の家族に対する看護活動について理解する。 3. 地域(在宅・学校・職場を含む)における看護活動について理解する。 4. 外来における看護活動について理解する。 5. 精神障害者の権利擁護に関する看護活動について理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法				担当教員	
1		地域精神看護とは		【講義】 コースオリエンテーション 精神の健康の増進および回復を促進する場としての地域の考え方について理解する。				永井	
2		精神障害者のケアマネジメント		【講義】 精神障害者の包括的ケアマネジメントおよび地域資源の活用と看護職の役割について理解する。				永井	
3		精神障害者の地域生活を支える看護活動		【講義】 訪問看護活動と精神科医療の外来(精神科デイケアを含む)における看護活動について理解する。				路川	
4		精神障害者の家族に対する看護		【講義】 精神障害者の家族の特徴および家族に対する看護について理解する。				半澤	
5		学校における精神保健看護活動		【講義】 思春期・青年期を中心とした学校におけるメンタルヘルス看護活動について理解する。				永井	
6		職域における精神保健看護活動		【講義】 職場における精神的問題をもつ人の早期介入と回復支援に関する看護活動について理解する。				永井	
7		精神障害者の権利擁護活動		【演習】 設定した場面や状況における精神障害をもつ教育支援者との対話により権利擁護活動と看護活動について具体的に理解する。				永井	
8		地域を基盤とした看護		【演習】 地域のさまざまな資源を活用して生活する精神障害者(教育支援者)の話を聞き、精神的健康の維持・回復のための地域看護活動について理解する。				路川・ 精神看護学 全教員	
9		当事者組織の活動支援		【演習】 精神障害者または家族等の当事者である教育支援者と組織支援者である非常勤講師の話を聞き、当事者活動を理解し、看護職としての組織支援について理解する。				土屋	
10～14		事例を用いた看護計画の立案		【演習】 地域で生活する精神障害者のグループ別に提示された事例についてアセスメントを行い、看護計画を作成する過程を通して、援助の優先性と具体的な援助方法を考える。				路川・ 精神看護学 全教員	
15		試験						永井	
教科書	「障害者総合支援法とは…〔改訂第3版〕」丸山晃監修、東京都社会福祉協議会、2020年 授業のなかで紹介するリストから、必ず1冊を購入する(「実践基礎看護学概論Ⅱ」で購入した教科書を含む)。				参考書等	適宜、授業のなかで紹介する			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅱ」				評価方法	1. e-learning およびレポート課題(40%) 2. 学習状況・授業の参加状況・学習態度(30%) 3. 筆記試験(最終回)(30%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	「精神看護方法」の内容と相互に関連して進行する。看護計画の立案は実習記録用紙等を使用し、事例を用いて行うものであり、当該年度の「精神保健看護実習」と連動している。 学習課題ごとに指示した内容について、e-learning 等により予習復習を行うことが求められる。予習復習時間は12時間以上。								

授業科目	公衆衛生看護活動論	科目責任者	塚本 友栄	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護、ヘルスケアシステムを整備したり機能させたりするための看護の展開方法を理解する。						
	到達目標	1. 公衆衛生の理念と目標を追求する看護の展開方法について理解する。 2. ヘルスケアシステム別の看護の展開方法を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～3	母子保健福祉システムと看護の展開方法	[講義] 1) 母子保健福祉における個別支援方法について理解する。 2) 母子保健福祉におけるグループ・地区組織支援、システムづくり、地域づくりの展開方法と保健師の役割を理解する。 3) 学校看護活動における保健師と養護教諭の連携と保健師活動の展開方法について学ぶ。					青木	
	学校保健システムと看護の展開方法							
4～6	成人・高齢者保健システムと看護の展開方法	[講義] 1) 成人・高齢者の健康づくり、生活習慣病対策、介護に関わるシステムと保健師活動の展開方法を理解する。 2) 地域の特性に応じた成人・高齢者への看護の展開方法を学ぶ。 3) 産業保健活動における産業保健師と行政保健師の連携した活動と活動の展開方法を理解する。					塚本	
	産業保健システムと看護の展開方法							
7	在宅ケアシステム、介護支援システムと看護の展開方法	[講義] 1) 在宅療養者と家族の支援ニーズを理解する。 2) 在宅ケアシステム、介護支援システムと看護の展開方法を理解する。					江角	
8・9	障害者支援システムと看護の展開方法	[講義] 1) 障害者とその家族の支援ニーズ、障害者支援システムと看護の展開方法を理解する。 2) 地域の特性に応じた障害者への看護の展開方法と支援体制づくりについて学ぶ。					島田	
							島田	
10・11	難病患者支援システムと看護の展開方法	[講義] 1) 難病患者と家族の支援ニーズを理解する。 2) 難病患者支援システムと看護を理解する。					市川	
12	へき地医療保健福祉システムと看護の展開方法	[講義] 1) 地域の特性に応じた在宅療養者と家族への看護の展開方法と支援体制づくりについて学ぶ。					青木	
13～15	感染症対策システムと看護の展開方法	[講義] 1) 感染症対策システムと看護を理解する。 2) 感染症発症時、並びに平常時の保健師の役割と活動方法を学ぶ。 3) 結核対策、並びにエイズ対策における保健師の役割と活動方法を学ぶ。					春山	
16	試験						塚本	
教科書	「最新公衆衛生看護学 第3版 各論1」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2021年版 「最新公衆衛生看護学 第3版 各論2」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2021年版 「国民衛生の動向2021/2022」厚生労働統計協会、2021年			参考書等	「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動第4版」松田正己他、医学書院、2018年 「新版保健師業務要覧 第4版2022年版」日本看護協会出版会、2022年 「国民の福祉と介護の動向2021/2022」厚生労働統計協会、2021年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」			評価方法	1. 筆記試験（85％） 2. 課題提出物（15％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	「保健医療福祉システム論」で得たヘルスケアシステムに関する知識と、「実践基礎看護概論Ⅲ」で得た公衆衛生看護のあり方に関する知識を基盤に、ヘルスケアシステム別の看護の展開方法を具体的に学ぶ。効果的に学ぶために、夏季休業中に予習課題を、開講後は実習に向けた復習課題を随時提示する。予習復習時間は46時間以上。教科書、授業資料及びMoodle等を活用して行うこと。本科目の単位取得は「公衆衛生看護実習」の履修条件(見込み含む)である。							

授業科目	公衆衛生看護方法論		科目責任者	青木 さぎ里	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護、ヘルスケアシステムを整備したり機能させるための看護の展開方法と技術を習得する。							
	到達目標	ヘルスケアシステムを整備したり機能させるための看護の展開方法を習得する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		地区活動の展開方法の実際	〔講義〕地区活動計画づくり、地区活動計画のあり方や考え方について学ぶ。					青木	
2		地区活動・地域診断に活用される理論	〔講義〕コミュニティ・アズ・パートナー・モデルやプリシード・プロセス・モデルなど、地区活動・地域診断に用いられる理論や地域把握の手法等について学ぶ。					青木	
3・4		演習オリエンテーション 地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（1）	〔演習〕栃木県内市町をフィールドとして、1つの市町を例にして、地域のヘルスニーズを明らかにする方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川・江角・舟橋	
5・6		地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（2）	〔演習〕地域診断に必要な情報の種類と、情報を収集する方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川・江角・舟橋	
7・8・9		地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（3）	〔演習〕地域診断に必要な情報を整理し統合する方法を学ぶ。 図表を用いた情報の整理や解釈の方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川・江角・舟橋	
10・11・12		地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（4）	〔演習〕収集した情報から地域診断を行い、演習フィールド市町のヘルスニーズを明らかにする方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川・江角・舟橋	
13・14		地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（5）	〔演習〕演習により明確にした演習フィールドのヘルスニーズについて、地区探査を通して得られた情報を追加し、演習フィールド市町の保健師から得た助言をもとに深める方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川・江角・舟橋	
15		保健福祉事業の展開方法の実際（計画立案、評価）	〔講義〕地区活動方法と保健事業の成り立ち・展開方法について学ぶ。					春山	
教科書	「最新公衆衛生看護学第3版 総論 2021年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2020年 「最新公衆衛生看護学第3版 各論 2022年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2022年				参考書等	「標準保健師講座〈1〉地域看護学概論」第5版、標美奈子他著、医学書院、2019 「標準保健師講座〈2〉地域看護技術」第3版、中村裕美子他著、医学書院、2016			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」				評価方法	1. 演習態度および提出物（90％） 2. 講義において提出を求める記録物（10％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	公衆衛生看護活動において必要となる地区活動や地域診断の技術について実践的に学習する。 演習を効率的に実施するために、夏季休業中に予習課題を課す。演習で作成した地域診断等の資料について、公衆衛生看護実習に向けて復習を行うこと。予習復習時間は12時間以上。演習内容は公衆衛生看護実習と連動しており、演習で取り組んだ地域診断について、実習を通して確認・修正し深める。								

授業科目	健康生活支援技術Ⅰ		科目責任者	江角 伸吾		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	15	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	人々の保健行動の特性と、健康問題の予防や健康の保持増進を図るための個人及び家族を対象とした看護援助方法を理解し、基本的な看護援助技術を習得する。								
	到達目標	1. 人々の保健行動に関連した理論と、保健指導の基本、並びに、その展開方法を理解する。 2. 家族を単位とした看護援助方法について理解する。 3. 健康問題の予防や健康の保持増進を図るための個人及び家族を対象とした看護援助技術の基本を習得する。								
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1		保健指導のねらいと基本	〔講義〕保健指導の目的・目標、保健指導実施者の姿勢や信頼関係形成技術などの保健指導の基本を学習する。						塚本	
2		行動変容を促す保健指導技術	〔講義〕Health Belief Model、Transtheoretical Model、自己効力理論等の行動変容にかかわる理論について学習する。 保健指導の展開過程について学習する。						塚本	
3		家族相談援助論	〔講義〕家族アセスメントとその基礎となる理論について学習する。健康課題をもつ家族員のいる家族の生活を理解し、看護援助方法について学習する。						江角	
4		保健指導の展開方法	〔講義〕個別の保健指導事例、地区活動の一手段として行う健康相談事例、ポピュレーションアプローチと連動した保健指導事業事例等をおして、保健指導の展開方法を学習する。						塚本	
5・6		保健指導技術演習	〔演習〕保健指導技術演習オリエンテーション 模擬事例を用いて予防的意義の高い働きかけの対象（生活習慣病・メタボリックシンドローム予備群）への行動変容を促すための保健指導計画の立案方法を学ぶ。						江角・春山・塚本・島田・市川・青木・舟橋	
7		保健指導技術演習	〔演習〕立案した保健指導計画に合わせて、ロールプレイを行い、根拠に基づいた行動変容を促す技術、並びに、関心やタイミングを捉えた働きかけの技術を学ぶ。						江角・春山・塚本・島田・市川・青木・舟橋	
8		保健指導技術演習	〔演習〕ロールプレイ演習の振り返り及びグループ討議を通して、保健指導において重要となることや予防的看護援助方法、行動変容を促す看護援助方法、セルフケア力を高める看護援助方法について学ぶ。						江角・春山・塚本・島田・市川・青木・舟橋	
教科書	「最新 公衆衛生看護学 総論 第3版 2021年版」 宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2020年					参考書等	「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第4版」中村裕美子他著、医学書院、2020年 「最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 第4版」村嶋幸代編、メヂカルフレンド社、2015年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」					評価方法	1. 演習記録物及び演習参加態度（90％） 2. 講義中のワークシート（10％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	生活習慣病やメタボリックシンドロームの疫学・成因・診断・病態・予防法・治療法について、予習した上で授業に臨むこと。「公衆衛生看護実習」の準備となる科目である。授業後は前学期及び後学期の実習における患者教育や保健指導に向けて復習をしっかりと行うこと。予習復習時間は23時間以上。									

授業科目	健康生活支援技術Ⅱ	科目責任者	島田 裕子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護の技術を習得する。						
	到達目標	1. 地区活動の一手段としての家庭訪問及び健康教育の意義と展開方法を理解する。 2. 家庭訪問技術を習得する。 3. 集団を対象とした健康教育方法を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	ガイダンス 家庭訪問技術演習	〔講義〕 家庭訪問技術演習オリエンテーション 地区活動の一手段である家庭訪問の目的と特徴、並びに、家庭訪問に必要な技術について学習する。					島田・春山・塚本・市川・青木・江角・舟橋	
2	家庭訪問技術演習	〔演習〕 模擬事例（乳児をもつ家庭）への家庭訪問計画の立案をととして、家庭訪問計画を立案する方法を学ぶ。					島田・春山・塚本・市川・青木・江角・舟橋	
3	家庭訪問技術演習	〔演習〕 立案した家庭訪問計画に合わせて家庭訪問のロールプレイを行うことをととして、実際に展開する方法を学ぶ。					島田・春山・塚本・市川・青木・江角・舟橋	
4	家庭訪問技術演習 まとめ	〔演習〕 ロールプレイ演習を振り返り、家庭訪問において重要となることや家族を単位とした看護援助方法、保健医療福祉サービス等の資源の利用を促す看護援助方法等についてグループ討議する。討議内容をグループ毎に発表し、学びを深める。					島田・春山・塚本・市川・青木・江角・舟橋	
5	地区活動の一手段としての家庭訪問 セルフヘルプ・グループづくりと支援	〔講義〕 地区活動の一手段として行う家庭訪問の展開方法について学習する。 セルフヘルプ・グループの特徴とグループ・ダイナミクス、並びに、グループづくりとグループへの支援について学習する。					春山	
6	健康教育の目的と方法 健康教育の企画と評価	〔講義〕 健康教育のパラダイムシフトとヘルスプロモーションの理念、並びにエンパワメントについて学習する。 健康教育の方法と特徴、教育媒体について学習する。 健康教育の企画書及び指導案の作成方法、並びに、健康教育の評価方法について学習する。					塚本	
7～14	健康教育演習	〔演習〕 健康教育オリエンテーション 演習フィールド市町における健康教育を企画し、企画書及び指導案を作成する。また、企画した健康教育で用いる教育媒体を検討・作成することをととして、健康教育の展開方法を学ぶ。					島田・春山・塚本・市川・青木・江角・舟橋	
15	まとめ	〔演習〕 企画した健康教育のリハーサルを行い、その結果に基づいて、健康教育内容を精練する。					島田・春山・塚本・市川・青木・江角・舟橋	
教科書	「最新 公衆衛生看護学 第3版 総論 2021年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2021年			参考書等	「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第4版」中村裕美子他著、医学書院、2020年 「最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 第4版」村嶋幸代編、メヂカルフレンド社、2015年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」			評価方法	1. 健康教育演習の参加態度と記録物（70%） 2. 家庭訪問技術演習の参加態度と記録物（30%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	対象の生活の場で行われる看護に必要な技術を学ぶ。後に続く公衆衛生看護実習では、学生の皆さんが実際に家庭訪問や健康教育を行う。演習を効果的に実施するために、夏季休業中に予習課題を課す。教科書の該当部分を読んで予習し、授業後は授業資料や教科書を活用して復習し実習に臨むこと。予習復習時間は12時間以上。							

授業科目	行政看護管理論		科目責任者	市川 定子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	地域生活集団を対象とした看護領域における看護管理に必要な基本的知識と看護職の機能を理解し、その看護管理の活動方法の基本を習得する。							
	到達目標	1. 地方自治体を単位とした行政看護領域における看護管理（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算編成・予算執行管理、人材育成、人事管理、情報管理）の目的と方法を理解する。 2. 事業化・システム化・施策化のプロセスを理解し、また既存事業の改善や事業化の基本的な方法を習得する。 3. 学校や事業所を単位とした保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法				担当教員	
1		地方自治体を単位とした行政看護領域における看護管理の目的と管理機能、事業化のプロセス		【講義】行政看護領域における看護管理の目的と管理機能（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算編成・予算執行管理、人材育成、人事管理、情報管理）を学習する。事業化のプロセスを学習する。				市川	
2		システム化のプロセス		【講義】地域における個人および家族への支援体制づくりと地域ケアのシステム化の方法について学習する。				春山	
3・4		学校保健システムに関わる看護職の管理的活動		【講義】学校を単位とした学校保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を学習する。				青木	
5・6		産業保健システムに関わる看護職の管理的活動		【講義】事業所を単位とした産業保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を学習する。				伊藤	
7		保健事業企画評価演習（1）		【演習】演習オリエンテーション 演習で取り組む保健事業を選定し、事業の実施方法、成果、課題を整理することを通して、公衆衛生看護実習における保健事業の展開方法を学習する。				市川・春山・塚本・島田・青木・江角・舟橋	
8		保健事業企画評価演習（2）		【演習】対象とする事業の必要性を、地域診断、法的根拠、当該自治体の施策における事業の位置づけ、事業開始の契機・理由から検討することを通して、より良い保健事業とするための方法や保健活動の改善方法を学習する。				市川・春山・塚本・島田・青木・江角・舟橋	
9・10		保健事業企画評価演習（3）		【演習】住民・他職種を対象とした事業説明を想定して、プレゼンテーションする方法を学習する。				市川・春山・塚本・島田・青木・江角・舟橋	
11・12		保健事業企画評価演習（4）		【演習】プレゼンテーション、演習まとめ				市川・春山・塚本・島田・青木・江角・舟橋	
13・14		住民グループの育成および支援		【演習】住民の自主グループづくりの事例を素材として、住民グループの育成および支援の方法と、地域資源として発展させる方法を学習する。				青木・江角・春山・塚本・島田・市川・舟橋	
15		試験						市川	
教科書	「最新公衆衛生看護学第3版 各論2 2021年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2021年				参考書等	「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 第4版」平野かよ子編、メヂカルフレンド社、2015年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「公衆衛生看護実習」				評価方法	1. 筆記試験（50%） 2. 演習態度及び演習の提出物（50%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	これまでの公衆衛生看護学の講義・演習・実習科目の学びを踏まえて、市町村、保健所、学校や事業所における看護管理活動に焦点をあてて学習する。公衆衛生看護実習の各フィールドでの学習を振り返り、教科書の該当部分を読んで授業に臨むこと。第7回～第12回については、公衆衛生看護実習（市町）における「保健事業の展開方法に関する学習」を素材に学習を深める。演習課題への取り組みと教員の助言・指導を踏まえて復習すること。予習復習時間は12時間以上。								

授業科目	地域健康危機管理論		科目責任者	島田 裕子		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	30	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	地域の健康危機管理の概念、活動体制と行政看護職の果たす機能・役割、健康危機の種別に応じた活動方法を理解し、地域の健康危機管理における行政看護職の活動方法の基本を習得する。								
	到達目標	1. 地域の健康危機管理の概念、活動体制と行政看護職の果たす機能・役割を理解する。 2. 地域における健康危機の種別（感染症・児童虐待・DV・自然災害、放射線災害など）に応じた、また予防期・発生時・回復期のフェーズに応じた行政看護職の活動方法を理解する。 3. 地域の健康危機管理における行政看護職の活動方法の基本を習得する。								
回数（1回90分）		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1		地域の健康危機管理とは		【講義】健康危機の概念、健康危機管理の概念、地域の健康危機管理体制、地域の健康危機管理における保健所保健師・市町村保健師の機能・役割を学習する。					島田	
2		感染症健康危機管理における行政看護職の役割と活動方法		【講義】感染症健康危機の特徴、平常時・発生時・終息後の行政看護職の活動について、行政看護職の機能・役割である情報収集・支援活動・倫理的配慮・事業の企画・体制づくり・活動評価の側面から学習する。					春山	
3～6		感染症集団発生時における行政看護職の活動方法		【演習】演習オリエンテーション ケースメソッドにより感染症集団発生時の保健師活動事例をととして、平常時・発生時・終息後の行政看護職の活動方法を考える。					島田・春山・塚本・市川・青木・江角・舟橋	
7・8		自然災害健康危機管理における行政看護職の役割と活動方法		【講義】災害時に対応した看護職の話を聞き、行政看護職の活動方法について考える。 自然災害の種別による特徴、平常時、並びに、発生時フェーズ毎の被災者の支援ニーズと行政看護職の活動について、行政看護職の機能・役割である情報収集・支援活動・倫理的配慮・事業の企画・体制づくり・活動評価の側面から学習する。					春山・島田	
9・10		自然災害発生時における行政看護職の活動方法		【演習】演習オリエンテーション ケースメソッドにより自然災害発生時の保健師活動事例をととして、発生時フェーズ毎の行政看護職の活動方法を考える。					島田・春山・塚本・市川・青木・江角・舟橋	
11・12		児童虐待とDVの予防対策と発生時対応に関わる行政看護職の役割と活動方法		【講義】児童虐待のアセスメント、予防対策と発生時対応にかかわる行政看護職の役割と活動方法について学習する。 DVの予防対策と発生時に関わる行政看護職の役割と活動方法について学習する。					春山・島田	
13・14		放射線災害に関わる行政看護職の活動方法		【講義】放射線災害にかかわる行政看護職の役割と活動方法について学習する。 【演習】放射線災害の被災者の話を聞き、放射線災害に関わる行政看護職の活動方法を考える。					島田 島田・春山・塚本・市川・青木・江角・舟橋	
15		試験							島田	
教科書	「最新 公衆衛生看護学 第3版 各論1／各論2 2021年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2021年				参考書等	「公衆衛生看護学テキスト 第3巻 公衆衛生看護活動Ⅰ 第2版」岡本玲子編、医歯薬出版株式会社、2022年 「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 第4版」平野かよこ編、メジカルフレンド社、2015年 「新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版」井伊久美子、荒木田美香子他編、日本看護協会出版会、2022年				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」				評価方法	1. 演習の参加態度、記録物（50％） 2. 試験（50％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	講義と演習を組み合わせることにより、到達目標の達成を目指す。3年次後学期の公衆衛生看護活動論と公衆衛生看護実習で学習した行政看護職の活動を振り返るとともに、教科書も活用して演習前の予習課題に取り組み授業に臨むこと。授業後は授業資料や教科書を用いて復習すること。予習復習時間は12時間以上。									

授業科目	看護倫理学		科目責任者	小原 泉		単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
						時間数	30	受講セメスター	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	医療・看護の現場で直面する倫理的課題と倫理の概念について学習し、看護者として人間の生命・尊厳・生活にかかわる権利を尊重するための基本的能力を養う。								
	到達目標	1. 生命倫理の原則を理解する。 2. 看護の対象となる人間の権利を理解する。 3. 看護実践上に必要な倫理的概念を理解する（インフォームド・コンセント、アドボカシー、アカウンタビリティ、協同、ケアリング）。 4. 看護実践の場で直面する倫理的課題を理解する。								
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1		倫理と生命倫理	[講義] 倫理および生命倫理とは何か、人間の権利と生命倫理の原則について学習する。						小原	
2		専門職の倫理	[講義] 「ICN 看護師の倫理綱領」や「看護者の倫理綱領」をはじめとする看護職の専門職倫理について学習する。						小原	
3		看護実践上の倫理的概念（1）	[講義] インフォームドコンセントおよび守秘義務・個人情報保護の概念と看護者の役割について学習する。						小原	
4		看護実践上の倫理的概念（2）	[講義] アドボカシー、責務/アカウンタビリティおよび協同/協力の概念と看護者の役割について学習する。						小原	
5		ケアの倫理	[講義] ケアとは何か、ケアの倫理について学習する。						加藤	
6		終末期ケアをめぐる倫理的課題	[講義] 終末期ケアにおける倫理的課題について学習する。						加藤	
7		先端医療をめぐる倫理的課題	[講義] 先端医療をめぐる倫理的課題について学習する。						小原	
8		看護実践における倫理的問題へのアプローチ	[講義] 看護実践上の倫理的問題の特徴と、倫理的問題を捉え調整していく方法について学習する。						小原	
9・10		看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（1）	[演習] グループワークとディスカッションによる事例検討（1） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。						加藤・小原	
11・12		看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（2）	[演習] グループワークとディスカッションによる事例検討（2） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。						加藤・小原	
13・14		看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（3）	[演習] グループワークとディスカッションによる事例検討（3） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。						加藤・小原	
15		評価							小原	
教科書	指定なし					参考書等	「医療倫理学のABC 第4版」 服部健司・伊東隆雄編著、メヂカルフレンド社、2018年 「系統看護学講座別巻看護倫理」 宮坂道夫他、医学書院、2018年			
履修条件	なし					評価方法	1. 課題レポート（80%） 2. 学習態度（とくにグループワークやディスカッションの参加態度）（20%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	看護倫理学は覚える教科ではなく、思ったことを言葉にして自ら考えていくことが求められる。配付資料や参考書等を活用して予習・復習を十分行い、グループワークやディスカッションに積極的に取り組み、自らの考えを深めること。予習復習時間は、46時間以上を必要とする。									

授業科目	看護管理学		科目責任者	上野 まり	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	1 5	受講セメスター	4 年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	医療の質の向上・効率化を目指した多職種共同による看護ケア提供システムのありかた、看護者としてのメンバーシップ、リーダーシップを理解し、相談、調整、教育、意思決定などの臨床実践能力を構築するための理論や方法を体系的に習得する。							
	到達目標	1. 看護管理の基礎概念および基礎的理論を理解する。 2. チーム医療メンバーの一員としてより質の高い看護ケアを提供するための仕組みを理解する。 3. 看護管理の実際を学び、看護部門を構成する看護メンバーシップの責務と役割を理解する。 4. 看護を取り巻く多様な状況から、看護管理の直面する課題とその背景を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容並びに方法						担当教員
1		看護管理学の概念・基礎的理論	【講義】看護管理の概念・基礎的理論について学習する。						成田
2		看護組織論・看護マネジメント（1）	【講義】質の高い看護を提供するための仕組みとチームマネジメント方法について学習する。						臨地教授 大海
3		看護組織論・看護マネジメント（2）	【講義】質の高い看護を提供するための仕組みとチームマネジメント方法について学習する。						臨地教授 大海
4		看護の質保証と人材育成 ーキャリア形成とその支援ー	【講義】質の高い看護を提供するための教育体制と、専門職としてのキャリア形成と組織におけるキャリア開発について学習する。						臨地准教授 福田
5		看護管理の実際（1）	【講義】看護における情報の活用と管理について学習する。						臨地講師 下田
6		看護管理の実際（2）	【講義】二次医療機関や高齢者関連施設等における看護管理の実際と課題について学習する。						浜端
7		看護管理の実際（3）	【講義】訪問看護ステーションにおける管理業務の実際と課題について学習する。						上野
8		レポート作成							上野
教科書	「系統看護学講座 看護の統合と実践（1）看護管理」上泉和子編、医学書院、最新版				参考書等	適宜呈示する			
履修条件	なし				評価方法	・学習態度・参加度（10％） ・レポート（90％） 【評価のフィードバック方法】 レポート返却時に学生に講評する			
備考	日々の看護実践を支えているのは看護管理である。看護の管理者として多様な場で活躍している方々を非常勤講師としてお迎えする。先輩方の看護への熱い思いから多くを学び、自分なりの看護への夢についてレポートにしてほしいと願っている。それぞれの単元の内容について、テキストや自分で検索した文献からで予習復習し、看護管理について自己の考えを深める。予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	チーム医療論		科目責任者	古島 幸江	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	15	受講セメスター	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	高度医療における医療チームとしての看護活動の実際とチームを維持し、発展させるための機能について理解する。							
	到達目標	1. 高度医療において医療チームとして看護職の果たす機能と役割について理解する。 2. 高度医療における医療チームの構成と多職種の果たす機能と役割について理解する。 3. 高度医療における医療チームの維持と発展について理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員
1		チーム医療の特質(1)	〔講義〕 チーム医療の概念、チーム医療の条件・意義、医療を担う多様な専門職種について学習する。						村上
2		チーム医療の特質(2)	〔講義〕 チーム医療における看護職の役割について学習する。						佐藤
3		チーム医療の特質(3)	〔講義〕 チーム医療における他・多職種間との協働の現状について学習する。						長谷川
4		チーム医療の実際(1)	〔講義〕 健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ患者に関わる医療チームの機能と看護の役割について学習する。 (急性期・周手術期事例)						古島
5		チーム医療の実際(2)	〔講義〕 長期療養上の健康課題をもつ患者に関わる医療チームの機能と看護の役割について学習する。 (慢性期・外来連携事例)						渡邊
6		チーム医療の実際(3)	〔講義〕 継続療養上の健康課題をもつ患者に関わる医療チームの機能と看護の役割について学習する。 (退院支援・在宅継続事例)						古島
7		チーム医療の展望	〔講義〕 チーム医療を促進あるいは阻害する因子と今後の在り方について学習する。						村上
8		評価	これまでの講義を踏まえ、今後のチーム医療と看護の役割について自らの考えをまとめ、課題レポートを提出する。						古島
教科書	『チーム医療』とは何か 細田満和子著、日本看護協会出版会、2021年				参考書等	「チーム医療論」鷹野和美編著、医歯薬出版、2002年 「多職種連携の技術」野中猛著、中央法規出版、2014年			
履修条件	なし				評価方法	課題レポート (100%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	これまでの授業や実習の知識・経験を本科目の学習内容と照らし合わせ想起しつつ、教科書の各回に関連する内容を事前に読んで授業に臨むこと。事後では、チーム医療について自らの考えを深められるよう復習をすること。予習復習時間は23時間以上。								

授業科目	看護政策学		科目責任者	春山 早苗		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし	
						時間数	15	受講セメスター	4年次 前学期		
学習目的と 到達目標	目的	政策決定過程を理解するとともに、わが国の保健医療福祉政策に関わる現状と課題、看護やケアに関連した経済的・政策的課題を理解し、その課題を解決していくための視野をもてる。									
	到達目標	1. わが国の保健医療福祉政策の現状と課題、並びに、保健医療福祉サービスと経済との関連を理解する。 2. 政策決定過程を理解する。 3. 国及び都道府県の保健医療福祉政策及び看護政策の現状と課題を理解する。									
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員		
1		政策とは わが国の保健医療福祉政策の現状と課題 保健医療福祉サービスと経済		[講義] 政策とは何か、について学習する。 わが国の保健医療福祉政策に関わる社会経済的背景、組織運営等の現状と課題を理解する。 社会保障費や国民医療費の現状と課題を理解し、保健医療福祉サービスと経済との関連を学習する。また、費用効果、費用効用、費用便益について学習する。					春山		
2		看護制度 政策決定過程		[講義] 看護制度の変遷と看護に求められる社会的責務を理解する。 政策決定過程について学習する。					春山		
3		保健師助産師看護師法 看護政策の現状と課題 1		[講義] 保健師助産師看護師法とそれに関連する法令について学習する。また、政策決定過程の実際を学習する。 看護基礎教育の充実に向けた検討等をととして現在の看護に関する政策の現状と課題を学習し、看護における政策の必要性和重要性について考える。					春山		
4		看護師等の人材確保の 促進に関する法律		[講義] 看護師等人材確保の促進に関する法律、並びに、看護職員確保対策等の政策決定過程の実際を学習する。					春山		
5		看護政策の現状と課題 2 政策策定過程への参画		[講義] 看護職員の需給見通しに関する検討や新人看護職員研修、チーム医療の推進に関する検討等をととして、現在の看護に関する政策の現状と課題を学習し、政策策定過程への看護職の参画の重要性 について考える。					春山		
6・7		都道府県における保健医療福祉政策と看護政策		[講義] 都道府県における保健医療福祉政策の現状と課題、並びに、公衆衛生活動や医療法などと看護政策との関連を考える。					櫻山		
8		試験							春山		
教科書	指定なし					参考書等	「看護法令要覧 平成31年版」日本看護協会出版会、2019年 「看護六法 令和4年版」新日本法規、2022年 「令和3年 看護関係統計資料集」日本看護協会出版会、2022年 「保健師助産師看護師法60年史」日本看護協会出版会、2009年				
履修条件	なし					評価方法	1. 筆記試験（80%） 2. 授業中に提出を求める記録物（20%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	「保健医療福祉システム論」で学習したわが国のヘルスケアシステム、並びに、「看護学概論」で学習した看護の変遷と役割について、よく復習するとともに、看護あるいは看護職にかかわる政策について、マス・メディア等から最近の動向を調べて授業に臨むこと。授業後は、授業で学んだことを看護あるいは看護職にかかわる政策の動向に照らし合わせながら復習し学習を進めていくこと。予習復習時間は23時間以上。										

授業科目	国際看護論		科目責任者	江角 伸吾		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
						時間数	15	受講セメスター	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	国際的な看護に関する組織について理解し、看護学の発展に関する課題や国際貢献、看護の国際化に関する現状と課題について理解する。								
	到達目標	1. 国際的な看護職能組織について理解する。 2. 国際的な看護学に関する教育の現状と学術団体について理解する。 3. 看護の国際貢献について理解する。 4. 看護の国際化に関する現状と課題について理解する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容並びに方法					担当教員	
1		世界の健康問題 国際看護に関わる主要概念 国際協力 国際看護の目的		〔講義〕世界の健康問題及び途上国の保健医療問題の現状、開発・プライマリヘルスケア・人間の安全保障と持続可能な開発目標、国際協力諸機関と協力の仕組み等について学習する。 以上を踏まえ、国際看護の目的について考える。					江角	
2		在日外国人の現状と看護 国際的な看護職能組織 世界の看護学教育の現状と国際的学術団体		〔講義〕在日外国人の現状と国際化に対応した看護のあり方や活動方法を考える。 国際看護師協会(ICN)、日本および世界における看護学教育の概要、看護の国際学術団体および学術集会について理解し、看護学の発展に関する課題を考える。					江角	
3		国際協力活動の実際1		〔講義・演習〕現場で起こった外国人患者とのトラブルから病院でのコミュニケーション方法について考える					江角	
4		国際協力活動の実際2		〔講義〕途上国における感染症対策支援事例から国際看護活動のあり方や方法を考える。					江角	
5		国際協力活動の実際3		〔講義〕途上国におけるヘルスプロモーション支援事例から国際看護活動のあり方や方法を考える。					江角	
6		看護の国際化に関する現状と課題		〔講義〕先進国における看護職の高齢化と途上国の看護労働力の輸出の現状などから看護における国際的な人材活用・人材育成の課題を考える。					志賀	
7		世界の感染症の動向と対策		〔講義〕世界の感染症の動向と国際保健における感染症対策の重要性とその実際を理解する。					春山	
8		試験							江角	
教科書	「改訂版 国際看護学 看護の統合と実践」 柳澤理子編、ピラールプレス、2017				参考書等	「国際看護学—グローバル・ナーシングに向けての展開—」南裕子監修、新川加奈子他編、中山書店、2013 「国際保健医療学 第3版」日本国際保健医療学会編、杏林書店、2013 「国際看護—国際社会の中で看護の力を発揮するために—」森淑江他著、南江堂、2019				
履修条件	なし				評価方法	1. 筆記試験(60%) 2. 授業中に提出を求める記録物(40%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	公衆衛生看護活動の展開方法(PDCAサイクル)を復習するとともに、教科書の該当部分を事前に読んで授業に臨むこと。授業後は、教科書や配付資料で復習し、看護が対応する問題と看護の役割を考えながら学習を進めていくこと。予習復習時間は23時間以上。グローバルな視点を持ち、看護専門職としての視野と可能性を広げることにつながる科目である。									

看護学分野

発達過程に焦点をあてた看護実践

授業科目	周産期実践看護学Ⅰ		科目責任者	角川 志穂		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	30	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	周産期（妊娠・分娩期）の母子とその家族の健康について理解し、必要な看護を学ぶ。								
	到達目標	1. 妊娠・分娩期の母子の生理的変化とセルフケア支援の必要性について理解し、その期にある母子と家族への看護の方法を学ぶ。 2. 妊娠・分娩期のハイリスク状態について理解し、その状態にある母子と家族への看護の方法を学ぶ。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容並びに方法					担当教員	
1・2		妊娠期にある母子の生理的変化とセルフケアの必要性		〔講義〕妊娠の進行に伴う全身の変化と胎児の成長、妊娠各期に生じる身体的、心理社会的変化を学び、この時期に起こりやすい健康課題に対する看護の援助方法を学ぶ。					角川	
3		妊娠期からの乳房の変化と母乳育児の基本		〔講義〕母乳の成分、乳房の形態・機能と乳汁分泌の仕組みを学び、妊娠期からの母乳育児支援に関する基礎的知識を学ぶ。					角川	
4・5		分娩期にある母子と家族への支援		〔講義〕分娩経過に影響を及ぼす因子と、分娩が母体と胎児に及ぼす影響を学ぶ。また、産婦とその家族に対する分娩期の支援について学ぶ。					成田、二宮	
6～8		妊婦・産婦（胎児）のアセスメントと支援の方法		〔演習〕妊産婦と胎児の健康状態をアセスメントするための観察項目とその方法について、実践的に学ぶ。					角川、川野、成田、上野知、二宮、谷田部、助教、臨地教員	
9		周産期の喪失体験とその支援		〔講義〕流産・死産・新生児死という周産期の喪失を体験した両親の理解とその支援について学ぶ。					角川	
10・11		ハイリスク状態にある妊産婦と家族についての理解		〔講義〕妊娠期・分娩期に起こるうる正常からの逸脱について理解し、その治療や看護について学ぶ。					角川	
12		妊娠期にある母子と家族への看護の展開		〔演習〕切迫早産で入院している妊婦（胎児）と家族への看護について、事例に基づいて展開し、実践的に学ぶ。					角川、上野知、二宮、谷田部、助教	
13		出生直後の新生児の生理的な適応と蘇生		〔講義〕出生直後の新生児蘇生のための基礎的知識を理解し、出生直後からの胎外生活適応安定化に向けたケアについて学ぶ（出生直後から生後24時間まで）。					谷田部	
14		新生児の家庭での養育とその支援		〔演習〕乳児（新生児）の家庭での養育の実際を学ぶ。					藤川（非常勤）、教育支援者	
15		試験							角川	
教科書	「母性看護学Ⅱ周産期各論」有森直子編者、医歯薬出版株式会社、2021年				参考書	「日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト第4版」細野茂春監修、メジカルビュー、2021年				
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）」				評価方法	1. 筆記試験（85%） 2. 事後課題（10%） 3. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する				
備考	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）で学んだことを復習し、各回の講義の前には、関連する部分について教科書を読む。毎回の講義、演習で学んだことを復習して、次の講義や演習に臨む。予習復習時間は12時間以上とする。周産期看護実習の履修には、本科目の単位取得が履修条件となっている。									

授業科目	周産期実践看護学Ⅱ		科目責任者	角川 志穂	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	周産期（産褥期・新生児期）の母子とその家族の健康について理解し、必要な看護を学ぶ。							
	到達目標	1. 産褥・新生児期の母子の生理的変化を理解し、生理的変化を促進する看護の方法を学ぶ。 2. 産褥・新生児期のハイリスク状態について理解し、その状態にある母子と家族への看護の方法を学ぶ。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容並びに方法						担当教員
1		産褥期にある母親のアセスメントの方法と支援	〔講義〕産褥早期の母体の正常な身体的・心理的な変化について理解し、その時期の女性が抱えやすい健康問題や不安とそれに対する看護について学ぶ。						角川
2		産褥期にある母親の母乳育児支援	〔講義・演習〕母乳分泌の時期を理解し、母乳分泌促進や乳房のセルフケアについて理解し、母乳育児確立に向けた支援について学ぶ。						角川
3		新生児期のアセスメントの方法と支援①	〔講義〕早期新生児期の正常な生理的・身体的変化を理解し、正常からの逸脱の予防や早期対処としての看護の援助方法を学ぶ。						角川
4		新生児期のアセスメントの方法と支援②	〔講義〕早期新生児期のフィジカルアセスメントの根拠となる知識を理解し、その内容と方法を学ぶ。						角川
5		ハイリスク状態にある褥婦のアセスメント方法と支援	〔講義〕産褥期の代表的な異常について学ぶ。また、帝王切開で出産した褥婦の看護について学ぶ。						角川
6		ハイリスク状態にある新生児と家族への支援	〔講義〕NICUに入院している新生児とその家族に対する看護について学ぶ。						NICU 角張
7～9		早期産褥・新生児期（施設入院中）のアセスメントに必要な看護技術と支援方法	〔演習〕褥婦と新生児の健康状態をアセスメントするための観察項目とその方法や、産褥入院中の看護について、実践的に学ぶ。						角川、川野、成田、上野知、二宮、谷田部、助教、臨地教員
10～15		産褥・新生児期にある母子と家族への看護過程の展開	〔演習〕産褥・新生児期にある母子とその家族の事例を通して看護計画立案をおこない、褥婦・新生児のアセスメントを実践的に学ぶ。（看護過程展開の課題）						角川、上野知、二宮、谷田部、助教
16		試験							角川
教科書	「新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス」平澤美恵子他監修、インターメディア、2020年 「母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得」有森直子編著、医歯薬出版株式会社、2020年				参考書等	「病が見える Vol. 10産科」医療情報科学研究所編、メディックメディア、2018年 「新生児学入門第5版」仁志田博司編、医学書院、2018年 「赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース」医学書院、2009年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）」				評価方法	1. 筆記試験（85%） 2. 看護過程展開の課題（10%） 3. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）、周産期実践看護学Ⅰで学んだことを復習した上で講義・演習に臨むこと。 演習の予習として事前課題が提示されるので、必ず課題に取り組み演習に参加すること。10～15回で行う看護過程の展開では、生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）、周産期実践看護学Ⅰで学んだ知識、本科目で学んだ知識が必要となるため、十分に復習して臨むこと。予習復習時間は12時間以上とする。 周産期看護実習の履修には、本科目の単位取得が履修条件となっている。								

授業科目	小児実践看護学Ⅰ	科目責任者	横山 由美	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	15	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	子どもの最良の健康状態を保持・増進するための援助および日常的な健康問題に対しての援助を学習する。						
	到達目標	1. 子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理のあり方や看護援助について政策などの観点も踏まえて理解する。 2. 親・家族の育児上の問題について学習する。 3. 小児期の日常的な健康問題と看護援助を理解する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容並びに方法					担当教員
1	子どもの健康の保持・促進（1）	〔講義〕 子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理の在り方や看護援助について政策を踏まえて学習する。（予防接種と小児感染症）					横山	
2	子どもの健康の保持・促進（2）	〔講義〕 子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理の在り方や看護援助について政策を踏まえて学習する。（乳幼児健診と学校健診）					横山	
3	子どもの健康の保持・促進（3）	〔講義〕 子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理の在り方や看護援助について政策を踏まえて学習する。（学童・思春期に起こりやすい問題）					小西	
4	親・家族への育児支援（乳幼児虐待予防）	〔講義〕 乳幼児虐待の定義や現状について理解し、予防と政策等の観点を踏まえて学習する。					朝野	
5	子どもに特徴的な健康問題と看護援助（1）	〔講義〕 子どもに特徴的な健康問題を理解し、その看護援助について学習する。（発熱・下痢・嘔吐・脱水）					横山	
6	子どもに特徴的な健康問題と看護援助（2）	〔講義〕 子どもに特徴的な健康問題を理解し、その看護援助について学習する。（アレルギー疾患）					横山	
7	子どもに特徴的な健康問題と看護援助（3）	〔講義〕 子どもに特徴的な健康問題を理解し、その看護援助について学習する。（事故と応急処置）					小西	
8	試験						横山	
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①」奈良間美保他著、医学書院、最新版 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論」奈良間美保他著、医学書院、最新版					参考書等	「子どもの保健テキスト 改訂第2版」小林みゆき編、診断と治療社、2021年 「日本子ども資料年鑑〈2022〉」日本子ども家庭総合研究所編、KTC 中央出版、2022年	
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）」					評価方法	1. 筆記試験 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する	
備考	生涯発達看護論および生涯発達看護学概論Ⅱにおける小児の成長発達の考え方をいながら進めていく。また、この後の小児実践看護学Ⅱ・Ⅲの基本となっていく科目である。グループディスカッションを含めた教育方法を用いて授業を展開します。授業の中で課題を出し、次の授業で確認をしながら進めていく。予習復習時間は23時間以上。							

授業科目	小児実践看護学Ⅱ		科目責任者	田村 敦子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	3 0	受講セメスター	2 年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	子どもに対する特徴的な生活の援助の方法を学習する。また、日常的な健康問題や日常起こりうる生命の危機状態にある子どもや家族への援助を学習する。							
	到達目標	1. 小児各期（乳児・幼児・学童期・思春期）における特徴的な生活援助の方法を学習する。 2. 小児各期（乳児・幼児・学童期・思春期）の特徴を理解し、子どもと親・家族との関わり方について学習する。 3. 生命の危機状態にある子どもへの的確な心肺蘇生を実施する方法を学習する。 4. 小児各期によく見られる健康問題の症状を理解し、援助について学習する。							
回数（1回90分）		学習課題		学習内容並びに方法				担当教員	
1		小児各期における特徴的な生活援助の技術（1）		〔講義・演習〕小児各期の発達特性を踏まえた子どもや親・家族とのコミュニケーション方法について学習する。				田村（敦）	
2		小児各期における特徴的な生活援助の技術（2）		〔講義・演習〕小児各期の発達特性を踏まえた子どもや家族への説明方法について学習する（プレパレーションなど）。				田村（敦）	
3		健康課題をもつ子どもと家族の看護（1）		〔講義・演習〕小児期特有の急性状況の子どもと家族の看護を小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。				田村（敦）	
4		小児期特有の疾患（1）		〔講義〕小児期特有の精神疾患について学習する。				柳橋	
5 6		小児看護特有の生活援助技術（3）		〔講義・演習〕小児救急における子どもと家族の看護について、小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。（小児の心肺蘇生・異物除去）				田村（敦） 小児看護学教員 臨地教員	
7 8		小児看護特有の生活援助技術（4）		〔演習〕小児看護特有の生活援助技術について、小児各期の発達の特徴を踏まえて理解し習得する。（安全・安静の確保、経管栄養、輸液の管理）				田村（敦） 小児看護学教員 臨地教員	
9		小児期特有の疾患（2）		〔講義〕小児期特有の慢性疾患（先天性心疾患、腎疾患、川崎病、Ⅰ型糖尿病、小児がんなど）について学習する。				田村（大）	
10		健康課題をもつ子どもと家族の看護（2）		〔講義・演習〕小児期特有の慢性疾患をもつ子どもと家族の看護を小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する				田村（敦）	
11		健康課題をもつ子どもと家族の看護（3）		〔講義・演習〕小児がんをもつ子どもと家族への看護について、発達特性を踏まえた援助方法を学習する。				田村（敦）	
12		健康課題をもつ子どもと家族の看護（4）		〔講義・演習〕予後不良な状態にある子どもと家族への看護について、発達特性および倫理的側面を踏まえた援助方法を学習する。 〔演習〕小児看護特有の生活援助技術について、小児各期の発達の特徴を踏まえて理解し習得する。（V/S測定、身体計測、沐浴）				田村（敦）	
13 14		小児看護特有の生活援助技術（4）						田村（敦） 小児看護学教員 臨地教員	
15		試験						田村（敦）	
教科書	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学 2、小児臨床看護各論」奈良間美保他著、医学書院、2020年 「看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術」添田啓子他、メヂカルフレンド社、2016年				参考書等	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学 1、小児看護学概論 小児臨床看護学総論」奈良間美保他著、医学書院、2019年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）」				評価方法	1. 筆記試験（50％） 2. 演習態度・演習課題レポート（50％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	生涯発達看護学概論Ⅱ・小児実践看護学Ⅰの学びを踏まえ、小児期特有の健康課題の特徴を理解し、子どもと家族に対する看護を学ぶ。また臨床教員の協力を得ながらより実践的な小児看護の技術について学習する。演習を行うための事前学習・事後学習が必要である。予習復習時間は12時間以上。								

授業科目	小児実践看護学Ⅲ	科目責任者	小西 克恵	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題を持ち、さまざまな状況にある子どもの看護を学習する。						
	到達目標	1. 小児期に特徴的な診療（治療・処置・検査・診察）上の看護援助を理解する。 2. 小児各期における特徴的なヘルスアセスメントの技術について学習する。 3. 健康課題が子どもの成長発達および生活に与える影響を理解する。 4. 健康課題をもつ子どもの日常生活の援助を理解する。 5. 子どもの健康課題が親・家族に与える影響を理解する。 6. 健康課題をもち、さまざまな状況にある子どもの看護について、倫理的側面および部門間、他職種・他機関との連携を踏まえて学習し、小児看護のあり方について理解する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員
1		健康障害をもつ子どもと家族への看護（1）	【講義】小児期に特有な健康課題をもつ子どもと家族を対象とした外来看護について学習する。					小西
2		健康障害をもつ子どもと家族への看護（2）	【講義】小児期に特有な健康課題をもつ在宅療養中の子どもと家族の看護について学習する。					小西
3		健康障害をもつ子どもと家族への看護（3）	【講義・演習】子どもの健康課題が家族に与える影響と家族への看護について学習する。					横山
4		小児期と手術	【講義】小児期に手術を必要とする疾患の特徴と小児の手術の特徴を学習する。					小野
5		健康障害をもつ子どもと家族への看護（4）	【講義・演習】周手術期に特徴的な健康障害をもつ子どもと家族への看護について、発達特性を踏まえた援助方法を学習する。					小西
6		小児期と神経・筋疾患	【講義】小児期に特徴的な神経・筋疾患を学習する。					村松
7		健康障害をもつ子どもと家族への看護（5）	【講義・演習】神経・筋疾患をもつ子どもおよび重症心身障害児とその家族への看護について、発達特性を踏まえた援助方法を学習する。					小西
8		健康障害をもつ子どもと家族への看護（6）	【講義・演習】予後不良な状態にある子どもと家族への看護について、発達特性および倫理的側面を踏まえた援助方法を学習する。					田村
9		試験						小西
10～15		ヘルスアセスメントの技術（1）～6）	【演習】小児看護における看護過程の展開について、小児各期の発達特性や個別性を踏まえ、事例を用いてヘルスアセスメントの方法を学習する。					小西 小児看護学教員
教科書	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学2、小児臨床看護各論」奈良間美保他著、医学書院、2021年 「看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術」添田啓子他、メヂカルフレンド社、2021年			参考書等	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学1、小児看護学概論 小児臨床看護学総論」奈良間美保他著、医学書院、2020年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）」			評価方法	1. 筆記試験（60％） 2. 演習態度、演習課題レポート（40％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	小児期の発達課題やその健康特性・健康障害を理解し、看護支援に関する方法を講義で教示し、演習を通じて実践力を培う。生涯発達看護学概論Ⅱおよび小児実践看護学Ⅰ、小児実践看護学Ⅱでの学びをさらに発展させ、小児期看護実習での実践への準備となる科目である。予習復習時間は12時間以上。							

授業科目	成人実践看護学Ⅰ		科目責任者	村上 礼子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	2年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するための知識を学習する。							
	到達目標	1. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害における主に外科的治療・検査に伴う看護を理解する。 2. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族の特徴を理解する。 3. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族が安全・安楽な療養生活を過ごすために必要な看護を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】機能障害をもつ成人とその家族の特徴を把握するための視点と方法について理解する。					村上	
2・3		循環機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】循環機能障害とその影響、ならびに治療（手術療法を含む）・検査を踏まえ、循環機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と視点について学習する。					長谷川	
4・5		呼吸機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】呼吸機能障害とその影響、ならびに治療（手術療法を含む）・検査を踏まえ、呼吸機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					渡邊	
6・7		消化・吸収機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】消化・吸収機能障害とその影響、ならびに治療（手術療法を含む）・検査を踏まえ、消化・吸収機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					渡邊	
8・9		栄養代謝機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】栄養代謝機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、栄養代謝機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					長谷川	
10・11		身体防御機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】身体防御機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、身体防御機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					古島	
12・13		性・生殖機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】性・生殖機能障害とその影響、ならびに治療（手術療法を含む）・検査を踏まえ、性・生殖機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					古島	
14		看護過程展開の実際	【講義】看護過程の基礎的知識について理解し、機能障害における看護実践を学ぶ。					佐藤	
15		試験						村上	
教科書	「新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学1 呼吸機能障害／循環機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2006年 「新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学2 消化・吸収機能障害／栄養代謝機能障害(第3版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学3 内部環境調節機能障害／身体防御機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学5 運動機能障害／性・生殖機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年						参考書等	その都度、関連のある書籍・文献を紹介する	
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）」						評価方法	筆記試験（100%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する	
備考	成人期継続療養看護実習、成人期健康危機看護実習、成人期長期療養看護実習の基盤となる実践的な内容である。 特に、成人実践看護学Ⅱとは関連性が強い講義科目である。教科書の該当する内容を事前に読み、授業に臨むこと。事後では、授業内容の理解を深められるように講義資料や参考資料に目を通し、復習すること。予習復習時間は46時間以上。履修順序は変更する可能性がある。								

授業科目	成人実践看護学Ⅱ		科目責任者	古島 幸江		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	30	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するために、必要な看護を学習する。								
	到達目標	健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族に必要な看護方法について、演習を通して習得する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1		呼吸機能障害をもつ成人とその家族の看護		〔講義〕健康危機を引き起こしやすい呼吸機能障害をもつ成人とその家族を理解し、具体的な看護実践を学習する。					渡邊	
2～3		手術療法を受ける成人とその家族の看護		〔講義〕手術療法を受ける成人とその家族の体験ならびに手術療法によって引き起こされる様々な機能障害を理解し、先見性のある看護実践を学習する。					古島	
4～7		健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族の看護過程		〔演習〕健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族の健康危機状況の回避と早期回復を目指した看護実践の思考過程（情報収集から計画立案）を学習する。					村上／古島 成人看護学 学科目教員	
8		手術療法を受ける成人とその家族の看護		〔講義〕手術療法を受ける成人とその家族の体験ならびに手術療法によって引き起こされる様々な機能障害を理解し、先見性のある看護実践を学習する。					古島	
9～11		健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族の看護過程		〔演習〕健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族の健康危機状況の回避と早期回復を目指して立案した看護実践の実際および評価の過程を学習する。					古島／村上 成人看護学 学科目教員	
12		生命の危機状況にある成人とその家族の看護		〔講義〕重度の急性機能障害に陥っている成人とその家族を理解し、重症化の回避と生命の危機状況からの早期回復を目指した看護実践を学習する。					古島	
13		循環機能障害をもつ成人とその家族の看護		〔講義〕健康危機を引き起こしやすい循環機能障害をもつ成人とその家族を理解し、具体的な看護実践を学習する。					長谷川	
14		循環機能障害をもつ成人とその家族の看護		〔演習〕健康危機を引き起こしやすい循環機能障害をもつ成人とその家族の健康危機状況の回避と早期回復を目指した看護実践を学習する。					長谷川／ 成人看護学 学科目教員	
15		試験							古島	
教科書	「新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学① 呼吸機能障害／循環機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2006年 「成人看護学 周手術期看護論(第3版)」雄西智恵美他編集、ヌーヴェルヒロカワ、2014年				参考書等	関連する文献・書籍をその都度紹介する				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ(成人期)」				評価方法	1. 筆記試験 (50%) 2. 課題レポート (50%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	成人実践看護学Ⅰと関連ある演習科目で、成人期健康危機看護実習に先立つ実践的な内容である。授業内容の理解を深めるには、講義資料に提示してある文献を読み解き、授業内容の予習・復習を要する。看護過程演習や機能障害別演習は提示された課題について、各自準備して演習に臨むこと。演習への主体的・積極的な参加姿勢を期待する。予習復習時間は12時間以上。履修順序は変更する可能性がある。									

授業科目	成人実践看護学Ⅲ	科目責任者	佐藤 幹代	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	15	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	長期的な療養生活が必要となる機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するために、必要な知識を学習する。						
	到達目標	1. 長期的な療養生活が必要となる各機能障害における主に内科的治療・検査に伴う看護を理解する。 2. 長期的な療養生活が必要となる各機能障害をもつ成人とその家族の特徴を理解する。 3. 長期的な療養生活が必要となる各機能障害をもつ成人とその家族が安全・安楽に療養生活を過ごすために必要な看護を理解する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1～2		内部環境調節機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】 内部環境調節機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、長期的な療養生活と向き合う成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。				佐藤	
3～4		脳・神経機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】 脳・神経機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、長期的な療養生活と向き合う成人とその家族の把握方法と看護の視点を学習する。				佐藤	
5		運動機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】 運動機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、長期的な療養に向き合う成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。				渡邊	
6～7		感覚機能障害をもつ成人とその家族の看護	【講義】 感覚機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、長期的な療養生活と向き合う成人とその家族の把握方法と看護の視点を学習する。				佐藤	
8		試験					佐藤	
教科書	「機能障害からみた成人看護学4 脳・神経機能障害／感覚機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「機能障害からみた成人看護学5 運動機能障害／性・生殖機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「機能障害からみた成人看護学3 内部環境調節機能障害／身体防御機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年					参考書等	その都度、関連のある書籍・文献を紹介する	
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ(成人期)」					評価方法	1. 筆記試験 (70%) 2. レポート (30%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する	
備考	機能障害別看護の実際について、特に長期的な療養生活が必要となる機能障害をもつ成人とその家族に焦点をあてて学ぶ科目である。成人実践看護学Ⅳとともに、成人期長期療養看護実習の基盤となる講義科目である。業内容の理解を深めるため、教科書を用いた予習を経て講義に臨み、講義後は講義資料に提示してある文献を読み解き、授業内容を復習する。予習復習時間は23時間以上。履修順序は変更する可能性がある。							

授業科目	成人実践看護学Ⅳ		科目責任者	長谷川 直人	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	長期的な療養生活が必要となる機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するために、必要な看護援助を学習する。							
	到達目標	長期的な療養生活が必要となる機能障害をもつ成人とその家族に必要な看護方法について、演習を通して習得する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		身体防御機能障害をもつ成人とその家族の看護	〔講義〕 身体防御機能障害をもちながら長期的な療養に取り組む成人とその家族を捉える視点と看護実践の具体的方法を学習する。					佐藤	
2		内部環境調節機能障害をもつ成人とその家族の看護	〔講義〕 内部環境調節機能障害をもちながら長期的な療養に取り組む成人とその家族を捉える視点と看護実践の具体的方法を学習する。					佐藤	
3		消化・吸収機能障害をもつ成人とその家族の看護	〔講義〕 消化・吸収機能障害をもちながら長期的な療養に取り組む成人とその家族を捉える視点と看護実践の具体的方法を学習する。					渡邊	
4		運動機能障害をもつ成人とその家族の看護	〔講義〕 運動機能障害をもちながら長期的な療養に取り組む成人とその家族を捉える視点と看護実践の具体的方法を学習する。					渡邊	
5		感覚機能障害をもつ成人とその家族の看護	〔演習〕 感覚機能障害をもつ成人（とその家族）の長期的な療養生活を支援する方法を学習する。					佐藤 成人看護学教員	
6		運動機能障害をもつ成人とその家族の看護	〔演習〕 運動機能障害をもつ成人（とその家族）の長期的な療養生活を支援する方法を学習する。					渡邊 成人看護学教員	
7		長期的な療養生活が必要となる成人とその家族の看護	〔講義〕 長期的な療養生活を要する機能障害をもつ成人とその家族への看護実践について、対象を把握する視点と患者教育に関する具体的な実践技術を学習する。					長谷川	
8～14		長期的な療養生活が必要となる成人とその家族の看護過程	〔演習〕 長期的な療養生活を要する機能障害をもつ成人とその家族の事例に基づいて、看護過程を学習する（情報収集、患者教育の実践演習を含む）。					長谷川・渡邊 成人看護学教員	
15		試験						長谷川	
教科書	「機能障害からみた成人看護学2 消化・吸収機能障害／栄養代謝機能障害（第3版）」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「機能障害からみた成人看護学3 内部環境調節機能障害／身体防御機能障害（第2版）」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「機能障害からみた成人看護学4 脳・神経機能障害／感覚機能障害（第2版）」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「機能障害からみた成人看護学5 運動機能障害／性・生殖機能障害（第2版）」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年					参考書等	その都度、関連する文献・書籍を紹介する		
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）」					評価方法	1. 筆記試験（50％） 2. 課題レポート（50％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する		
備考	機能障害別看護の実際について、特に長期的な療養生活が必要となる機能障害をもつ成人とその家族に焦点をあてて学ぶ科目である。成人実践看護学Ⅲとともに、成人期長期療養看護実習の基盤となる演習科目である。授業内容の理解を深めるため、教科書を用いた予習を経て講義に臨み、講義後は講義資料に提示してある文献を読み解き、授業内容を復習する。予習復習時間は12時間以上。履修順序は変更する可能性がある。								

授業科目	老年実践看護学Ⅰ		科目責任者	上野　まり		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり	
						時間数	15	受講セメスター	2年次前学期		
学習目的と到達目標	目的	高齢者の生活、および高齢者ケアシステムと保健問題に関わる看護の役割について学習する。									
	到達目標	1. 高齢者の生活習慣とセルフケアについて学習する。 2. 高齢者の保健・医療・福祉施策について理解する。 3. 高齢者の健康保持増進と看護の役割を理解する。 4. 高齢者におけるケアマネジメントについて理解する。									
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容並びに方法						担当教員		
1		高齢者の健康特性と家族の機能・役割	【講義】 指標・保健統計からみた高齢者の健康特性と高齢者の生活や介護を支える家族の機能・役割について学習する。						上野（ま）		
2・3		高齢者の健康生活を支える看護	【講義】 高齢者と家族の安全・安心な日常生活のために必要なセルフケアの支援方法について学習する。 (在宅人工呼吸療法・在宅酸素療法・経管栄養法・褥瘡管理・在宅輸液管理)						上野（ま）		
4		高齢者を支える社会資源とその活用	【講義】 社会資源の種類と活用方法について学ぶ。また、在宅や施設における情報通信技術（ICT）や人工知能（AI）・ロボットなどの活用を学習する。						川上		
5		高齢者の健康評価	【講義】 高齢者の生活習慣に見られる特徴的な疾患と健康評価、高齢者総合機能評価（CGA）や日常生活動作の指標（FIM、BI）などを学習する。						浜端		
6		高齢者を支える保健医療福祉施策	【講義】 保健医療福祉ならびに地域包括ケアシステムに関連する法や制度と支援の実践を学習する。						上野（ま）		
7		高齢者の在宅療養とケアマネジメント・ケースマネジメント	【講義】 在宅看護の事例を通じて、在宅療養とケアマネジメント・ケースマネジメントの実践を学ぶ。						上野（ま）・鮎澤		
8		試験							上野（ま）		
教科書	「在宅看護論（改訂第2版）自分らしい生活の継続をめざして」石垣和子、上野まり編、南江堂、2021年					参考書等	適宜提示する				
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）」					評価方法	1. 筆記試験（80％） 2. レポート（10％） 3. 学習態度・参加度（10％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	学習課題に記載されている内容に関連し、1年次に生涯発達看護学概論Ⅳで学んだ内容は復習しておき、提示されている教科書の該当ページを、講義前後に熟読し、疑問があれば必ず教員に質問に行く。予習復習時間は23時間以上。										

授業科目	老年実践看護学Ⅱ		科目責任者	浜端 賢次	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	加齢のプロセスにより生じる様々な健康段階を理解し、生活・療養の場に応じた高齢者のエンパワーメントを生み出す看護援助の方法について学習する。							
	到達目標	1. 高齢者の生活機能レベルの変化とその看護活動について理解する。 2. 高齢者の健康障害や特有な疾患とその看護について理解する。 3. 高齢者のQOLを高める看護活動について理解する。 4. 老年看護をめぐる倫理的課題を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～2		高齢者看護の基本的アプローチ①	[講義・演習] 高齢者によくみられる疾患、老年症候群やフレイルを予防する視点、高齢者のエンパワメントを生み出す看護について学習する。また、事例を通して高齢者の倫理的課題を検討する。					浜端	
3		高齢者看護の基本的アプローチ②	[講義] 高齢者に対するフィジカルアセスメントの特徴を学び、バイタルサインの特性をふまえた高齢者看護を学習する。					川上	
4		障害・疾病を有する高齢者の看護①	[講義] 高齢者によくみられる疾患（脳・神経系・皮膚等）の特徴を学び、高齢者の生活を支える看護を学習する。					浜端	
5		障害・疾病を有する高齢者の看護②	[講義] 加齢に伴う骨・関節疾患、泌尿器疾患の特徴、ならびに症状や障害を学び、高齢者の生活を支える看護を学習する。					酒井・川上	
6		障害・疾病を有する高齢者の看護④	[講義] 加齢に伴う疾患・症状（呼吸器、泌尿器、整形外科）と障害を学び、機能障害を有する高齢者看護と在宅支援を学習する。					工藤・大畑・田村・酒井・浜端	
7		障害・疾病を有する高齢者の看護⑤	[講義] 加齢に伴う疾患・症状（皮膚、脳神経・脳血管）と障害を学び、機能障害を有する高齢者看護と在宅支援を学習する。					宮沢・太田 浜端	
8		多様な生活の場で展開する高齢者の看護	[講義] 障害・疾病を有する高齢者の退院支援をふまえ、生活の場の移動と看護の継続について学習する。					浜端・船田	
9		症候を有する高齢者の看護	[講義・演習] 加齢に伴う様々な症候（脱水症、摂食・嚥下障害、尿失禁、便秘・下痢、せん妄、感染症等）を学び、高齢者の生活を支える看護を学習する。					酒井・浜端	
10～11		老年看護過程の展開①	[講義・演習] 健康障害や疾病を有する高齢者にエンパワメントアプローチ等を活用し、高齢者のQOLを高める看護を学習する。					浜端・上野（ま）・酒井	
12		老年看護過程の展開②	[講義・演習] 健康障害や疾病を有する事例を用いてグループワークを行い、エンパワーメントを生み出す老年看護過程の展開の実際を学ぶ。					浜端・上野（ま）・酒井	
13		老年看護過程の展開③	[講義・演習] 老年看護過程の基本を基に、アセスメントの4側面を展開する。アセスメントした内容を統合し、本人と家族の思いを明らかにする看護過程を展開する。					上野（ま） 浜端・酒井	
14		治療を受ける高齢者の看護	[講義] 薬物療法や手術療法などを受ける高齢者の看護について学習する。					浜端	
15		試験						浜端	
教科書	「老年看護学② 高齢者看護の実践」、堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子編、メディカ出版、2021年				参考書等	「在宅看護論」改訂第2版、石垣和子・上野まり編、南江堂、2018年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）」				評価方法	1. 筆記試験（80%） 2. 課題レポート（看護過程の提出物含む）（20%） 3. 学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本科目は、生涯発達看護学概論Ⅳで学んだ高齢者の特徴（加齢現象等）を基盤としている。必ず、生涯発達看護学概論Ⅳの学習内容を見直し、高齢者の特徴を復習した上で講義・演習に臨む。また、学習内容に記載している障害・疾病に関する予習や講義中に配布した資料等の復習を行い、高齢者の看護実践を考えながら講義・演習に臨む。なお、定期試験については成績開示期間を提示する。予習復習時間は12時間以上。								

授業科目	老年実践看護学Ⅲ		科目責任者	浜端 賢次		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	30	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	老年看護学の理論、知識、技術を踏まえ、健康の段階に応じた老年看護技術を習得する。								
	到達目標	1. 高齢者のヘルスアセスメントのための技術や評価の方法を理解する。 2. 高齢者の生活機能レベルに応じた看護を理解する。 3. 高齢患者の健康の段階を考慮した日常生活援助技術を習得する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1		老年看護過程の展開		[講義・演習] 老年看護過程を用いて、高齢者の看護支援について検討する。					浜端・酒井 上野(ま)	
2～3		在宅看護過程の展開		[講義・演習] 在宅看護過程を用いて、高齢者の看護支援について検討する。					上野(ま) 酒井・浜端	
4～10		高齢者の健康課題や生活の場に応じた看護実践①		[講義・演習] ・高齢者の活動と休息、移動のアセスメントと看護実践について学ぶ。 (徒手筋力テスト：MMT、転倒・骨折を予防するケアなど) ・高齢者の食事と栄養のアセスメント、咀嚼・嚥下障害のある高齢者への食事援助および口腔ケアについて学ぶ。 (義歯の介助、食事介助、口腔ケア、経管栄養、脱水観察など) ・高齢者の排泄機能のアセスメントと排泄障害のある高齢者への排泄ケアについて学ぶ。 (ストーマケア・ウロストミーケア、便秘時のケアなど) ・高齢者の皮膚機能のアセスメントと皮膚障害のある高齢者への皮膚保護ケアについて学ぶ。 (褥瘡予防方法とスケールの活用、テープの剥がし方など) ・急性期および周手術期にある高齢患者への看護について学ぶ。 (バイタルサイン測定と意識レベルの観察：瞳孔等の見方、医療機器：輸液ポンプ・電子血圧計・血糖測定等の使用方法、せん妄の評価など)					浜端・酒井 川上・上野 (ま)	
11～12		高齢者の健康課題や生活の場に応じた看護実践②		[講義・演習] 在宅療養生活を支える高齢者の日常生活支援について学ぶ。 (在宅で展開する看護技術：洗髪器の作成、オムツ交換、排便・浣腸、胃瘻ケア、服薬ケア、在宅酸素など)					上野(ま) 酒井・川上 浜端	
13～14		認知症高齢者への看護		[講義・演習] 認知症高齢者の理解と看護について学ぶ。					浜端	
15		試験							浜端	
教科書	・「老年看護学 概論と看護の実践 第6版」奥野茂代・大西和子監 監修、ヌーヴェルヒロカワ、2019年 ・「在宅看護論(改訂第2版) 自分らしい生活の継続をめざして」石垣和子、上野まり編、南江堂、2019年				参考書等	必要時提示する				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「生涯発達看護学概論Ⅳ(老年期)」				評価方法	1. 筆記試験(80%) 2. 課題レポート(20%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	既習事項を基盤に、老年臨床看護実習及び老年在宅看護実習での看護実践に関連する内容を学ぶ。教科書や配布資料などを用い、学習内容を予習・復習すること。また、演習が効率よく展開できるよう時間を意識して行動すること。さらに、援助技術の習得のため、演習室を活用し主体的に学ぶこと。試験結果の開示期間は掲示にて周知する。予習復習時間は12時間以上。									

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅴ (リプロダクティブヘルス)		科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	15	受講セメスター	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	リプロダクティブヘルス・ライツおよび女性特有の健康問題に対する看護・支援を学ぶ。							
	到達目標	1. リプロダクティブヘルス・ライツの概念を理解する。 2. ライフサイクルの各期に応じたリプロダクティブヘルス・ライツに関する健康問題と看護を学ぶ。 3. ライフサイクルにおける女性の健康問題と看護・支援を学ぶ。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員
1		リプロダクティブヘルス・ライツの概念	[講義] リプロダクティブヘルス・ライツの概念および、女性の健康支援の必要性・あり方を考える。						成田
2		思春期女性の健康問題と看護	[講義] 思春期女性の健康問題および、支援の必要性和看護について学ぶ。						成田
3		成熟期女性の健康問題と看護	[講義] 成熟期女性の健康問題および、支援の必要性和看護について学ぶ。						成田
4		更年期女性の健康問題と看護	[講義] 更年期女性の健康問題および、支援の必要性和看護について学ぶ。						成田
5		妊娠の意思決定および、望まない妊娠による健康問題	[講義] ・受胎調節と避妊法の基本について学ぶ。 ・望まない妊娠による健康問題について学ぶ。 ・妊娠の意志決定の支援について学ぶ。						成田
6		不妊とその看護	[講義] 不妊および、本人と家族の看護について学ぶ。						成田
7		性感染症とその予防	[講義] ・性感染症による健康問題について学ぶ。 ・性感染症予防の支援について学ぶ。						成田
8		試験							成田
教科書	指定しない				参考書等	『母性看護学Ⅰ（概論）』有森直子編、医歯薬出版、2022年 適宜提示する			
履修条件	なし				評価方法	1. 筆記試験（60％） 2. 事後課題（35％） 3. 学習態度（5％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	3年生までの学習内容が基礎になっているため、解剖・病態・発達段階とホルモン変化の復習をしてから望むこと。 1回ごとに学習課題が異なるため、講義内容および指定した内容を復習すること。 予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	助産学概論		科目責任者	成田 伸		単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
						時間数	15	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	助産および助産師活動の概要について学習する。								
	目標	1. 助産師および助産師活動の概念を理解する。 2. 母子保健と助産の変遷について理解する。 3. 性・生殖と人権について理解する。 4. 生命倫理について理解する。 5. 助産師の国際活動と海外の母子保健の課題を理解する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容並びに方法					担当教員	
1		助産の概念、助産師とは		〔講義〕助産の概念、助産師の業務範囲、助産師の役割など、助産学の基本的概念について理解する。					成田	
2		助産師活動の概要、母子保健と助産の変遷		〔講義〕分娩の歴史と助産の変遷、保健医療の推移について学ぶ。					角川	
3		性・生殖の健康と人権		〔講義〕助産実践との関連で、性と生殖の健康と人権について理解する。					成田	
4		助産師の国際活動と海外の母子保健		〔講義〕助産師の国際活動と海外の母子保健について学ぶ。					谷田部	
5～7		助産に関わる生命倫理		〔講義・演習〕助産に関連する倫理、助産師の倫理綱領、助産実践に関連する生命倫理について理解する。					成田・川野	
8		試験							成田	
教科書	指定しない			参考書等	「助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論」 日本看護協会出版会、2022年 「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」日本看護協会出版会、2022年 他 適宜提示する					
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「周産期看護実習」			評価方法	1. 筆記試験（50%） 2. 事後課題（30%） 3. 演習への参加状況（15%） 4. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する					
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 保健師およびNICU 就職希望者など、助産師希望学生以外の就職の場合も役立つ内容である。 生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。 各自で資料を収集し、積極的に講義・演習に参加すること。毎回の講義資料に基づいて復習し、次回の講義に備えること。予習復習時間は12時間以上とする。									

授業科目	基礎助産学Ⅰ		科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	15	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	妊娠期・分娩期の生理と病態について学習する。							
	到達目標	1. 妊娠期の生理的变化と母体の適応について学ぶ。 2. 妊娠経過および妊娠期の正常からの逸脱について学ぶ。 3. 胎児の成長・発達および胎児付属物の機能について学ぶ。 4. 胎児および胎児付属物の正常からの逸脱について学ぶ。 5. 分娩の生理を学ぶ。 6. 分娩期の正常からの逸脱について学ぶ。							
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法				担当教員	
1		妊娠期の生理的变化		〔講義〕 妊娠の生理、妊娠の診断、妊娠期の心身の変化について学ぶ。				上野(知)	
2		妊娠期の正常からの逸脱と対応		〔講義〕 妊娠経過の診断、妊娠期の各種検査、正常からの逸脱の予防、妊娠経過中に起こる異常と対応、妊娠の合併する異常と対応について学ぶ。				川野	
3		胎児の成長と発育 胎児・胎児期の正常からの逸脱 胎児付属物の構造・機能と異常		〔講義〕 胎児の成長と発育について学ぶ。胎児の正常からの逸脱、胎児付属物の構造・機能・役割、胎児付属物に関する異常と診断方法について学ぶ。				川野	
4・5		分娩の生理		〔講義〕 分娩の概念、分娩経過、分娩の3要素、分娩機序について学ぶ。				川野	
6・7		分娩期の正常からの逸脱と対応		〔講義〕 分娩経過の診断、分娩経過の異常（分娩停止・分娩遷延）、娩出力の異常（微弱陣痛・過強陣痛）、産道の異常（骨産道・軟産道）、分娩期の正常からの逸脱の予防と異常への対応について学ぶ。				川野	
8		評価						川野	
教科書	「助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2022年 「助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ（分娩期・産褥期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2022年 「助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ（新生児期・乳幼児期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2022年				参考書等	「病態・治療論〔13〕産科婦人科疾患」百枝幹雄他、南江堂、2019年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」				評価方法	1. 筆記試験（80%） 2. 課題レポート（15%） 3. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。毎回の講義で学んだことを復習して、次の講義に臨むこと。・予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	基礎助産学Ⅱ		科目責任者	角川 志穂	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	15	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	産褥期・新生児期の生理と病態について学習する。							
	到達目標	1. 産褥期の生理的变化・経過について学ぶ。 2. 産褥期の正常からの逸脱について学ぶ。 3. 新生児の生理的变化について学ぶ。 4. 新生児および新生児期の正常からの逸脱について学ぶ。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2		産褥期の生理的变化、 産褥期の局所的变化	〔講義〕産褥期の身体的変化、心理・社会的変化について理解し、 進行性変化と退行性変化および、正常な変化を促進する要因について学ぶ。					角川	
3・4		産褥期の正常からの逸脱と対応	〔講義〕産褥期の正常からの逸脱の予防、産褥期に起こりやすい異常と対応について学ぶ。					角川	
5－7		新生児の生理的变化 新生児・新生児期の正常からの逸脱と対応、 ハイリスク新生児・低出生体重児のケア	〔講義〕周生期にある胎児・新生児の生理的变化、子宮外生活への適応について学ぶ。 新生児の異常徴候、新生児期の正常からの逸脱と観察、ハイリスク新生児・低出生体重児と家族のケア					角川	
8		試験						角川	
教科書	「助産学講座7助産診断・技術学Ⅲ（分娩期・産褥期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年 「助産学講座8助産診断・技術学Ⅲ（新生児期・乳幼児期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年				参考書等	「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改定第4版」北川眞理子編集、南山堂、2019年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」				評価方法	1. 筆記試験（95%） 2. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。 毎回の講義前に関連する内容について教科書を読んでおくこと。また、毎回の講義で学んだことを復習して、次の講義に臨むこと。予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	基礎助産学Ⅲ		科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	1 5	受講セメスター	4 年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	母子と家族の健康、母子と家族の心理的側面および、妊娠・出産に関わる社会文化的側面について学習する。							
	到達目標	1. 母性・父性の発達と家族役割の変化について理解する。 2. 周産期女性の心理について理解する。 3. 母子の健康に影響を与える要因について理解する。 4. 母子の心理および、社会的側面に影響を与える要因について理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2		母子の健康と生活に影響を与える要因	〔講義〕 母子の健康と栄養、母子と免疫、妊娠中の薬剤の影響、遺伝性疾患、妊娠中の感染症・性感染症など、母子の健康に影響を与える要因について学ぶ。					成田	
3		母子と家族の心理的・社会文化的側面に影響を与える要因	〔講義〕 リプロダクティブヘルス／ライツ、ジェンダーと出産、女性への暴力、児童虐待など、母子の心理および社会文化的側面に影響を与える要因について学ぶ。					成田	
4		母性・父性とは、妊娠・出産による家族の変化、バースプランとバースレビュー	〔講義〕 女性と家族にとっての妊娠・出産・育児体験と、生活の変化について学習する。 バースプラン、バースレビューについて学ぶ。					成田	
5～7		母子の健康と生活への支援（小集団指導）	〔演習〕 母子の健康生活を支援するための小集団指導の方法について実践的に学ぶ。					成田	
8		評価							
教科書	指定しない				参考書等	「助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期）」 我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、最新版 「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅲ（分娩期・産褥期）」 医学書院、最新版 「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅳ（新生児期・乳幼児期）」 横尾京子編集、医学書院、最新版			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」				評価方法	1. 各回の小テスト・事後課題の提出（75%） 2. 課題レポート（20%） 3. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 レポート：学生に講評する テスト：模範解答等を掲載する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 この科目の予習として、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の心理・社会的側面の範囲を復習してから受講し、講義内容を復習し、理解して試験に臨むこと。予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	実践助産学Ⅰ		科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	15	受講セメスター	4 学年 前学期	
学習目的と目標	目的	妊娠期の助産実践に必要な知識を理解し、アセスメントと支援の基礎的技術を習得する。							
	到達目標	1. 妊娠の診断について学ぶ。 2. 妊婦、胎児および家族の健康状態のアセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 3. 妊婦、胎児および家族に必要な健康教育について理解する。 4. 妊婦と家族への健康教育に必要な基礎的技術を習得する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1		妊娠の診断 妊婦のフィジカルアセスメントと助産診断	【講義】妊娠の確定診断、妊娠各期の経過を診断するためのフィジカルアセスメント、妊娠各期の助産診断に必要な項目について学ぶ。					川野	
2		妊婦のフィジカルアセスメントの実践	【講義・演習】妊婦のフィジカルアセスメントについて学ぶ。 (妊娠の診断、健康診査、妊婦のフィジカルアセスメント)					上野(知)	
3・4		妊娠期の異常と妊娠合併症の診断と対応	【講義】妊娠期の異常や合併症の診断(妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病など)と対応について学ぶ。					高橋	
5		妊娠期の助産過程の展開	【演習】正常経過にある妊婦とその家族の支援方法および、妊娠各期の助産過程の展開について学ぶ。					川野	
6・7		妊婦と家族への健康教育	【演習】妊婦と家族への健康教育の意義および実践について学ぶ。					川野	
8		試験						川野	
教科書	「助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2022年 「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改定第4版」北川眞理子編集、南山堂、2019年 「産婦人科診療ガイドライン 産科編2020」日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集、日本産科婦人科学会事務局、2020年				参考書等	「臨床産科学テキスト」長谷川潤一、メディカ出版、2019年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」				評価方法	1. 筆記試験(85%) 2. 課題レポート(10%) 3. 学習態度(5%) 【評価のフィードバック方法】 レポート：学生に講評する テスト：模範解答等を掲載する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。 予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	実践助産学Ⅱ		科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	4 学年 前学期	
学習目的と目標	目的	分娩期および出生直後の新生児に対する助産実践に必要な知識を理解し、アセスメントと支援の基礎的技術を習得する。							
	到達目標	1. 分娩進行に伴う身体・心理的变化について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術を習得する。 2. 胎児のウェルネスの指標について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術を習得する。 3. 妊娠期・分娩期の助産過程に必要な知識と技術を習得する。 4. 分娩経過中の産婦と家族への支援について理解する。 5. 分娩介助に必要な基礎的技術を習得する。 6. 出生直後の新生児の生理的变化と胎外生活への適応について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術を習得する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1		分娩進行に伴う身体・心理的变化のアセスメント	【講義】 分娩各期の分娩経過に伴う身体・心理的变化のアセスメントとケアについて学ぶ。 ハイリスク分娩の予防・支援について学ぶ。					川野	
2		分娩経過中の産婦と家族の支援	【講義】 分娩経過中の産婦と家族へのアセスメントと支援について学ぶ。					川野	
3・4		母体と胎児のウェルネスの指標とアセスメント（超音波断層法・胎児心拍モニタリング）	【講義】 母体と胎児のウェルネスの指標として、超音波検査法と胎児心拍モニタリングを学び、母体および胎児の評価について学ぶ。					桑田	
5・6		母体と胎児のウェルネスの指標とアセスメント	【講義】 分娩経過中の母体と胎児のウェルネスの指標とアセスメントについて学ぶ。					川野	
7～9		分娩期の助産過程の展開	【講義・演習】 分娩期の母体と胎児のウェルネスの評価、産婦と家族への支援について、事例をもとに助産過程を展開し学ぶ。					川野	
10～13		分娩介助に必要な基礎的技術とその実践	【講義・演習】 分娩介助に必要な基礎的技術について学ぶ。					川野・上野・ 谷田部・二宮・ 助教	
14		出生直後の新生児のアセスメントとケア	【講義・演習】 出生直後の新生児の成長・発達・成熟度の診断と胎外生活への適応の診断を含む分娩介助に必要な基礎的な基礎技術を習得する。					小林 川野	
15		試験						川野	
教科書	「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2013年 「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改定第4版」北川真理子編集、南山堂、2019年 「産婦人科診療ガイドライン 産科編2020」日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集、日本産科婦人科学会事務局、2020年				参考書等	「臨床産科学テキスト」長谷川潤一、メディカ出版、2019年 「分娩のしくみと介助法」竹田省、高橋真理編集、メジカルビュー社、2016年 「図説 CTG テキスト アドバンス」中井章人、メジカルビュー社、2017年 「分娩介助学 第2版」進純郎、医学書院、2014年 「正常分娩の助産術」進純郎・堀内成子、医学書院、2010年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」				評価方法	1. 筆記試験（85%） 2. 課題レポート（10%） 3. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 レポート：学生に講評する テスト：模範解答等を掲載する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4 年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。 予習復習時間は12時間以上とする。								

授業科目	実践助産学Ⅲ		科目責任者	角川 志穂		単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
						時間数	30	受講セメスター	4 学年前学期	
学習目的と目標	目的	早期産褥・新生児期の母子と家族について理解し、そのアセスメントと支援の基礎的技術を習得する								
	到達目標	1. 早期産褥期の身体・心理的变化とその支援について理解し、アセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 2. 褥婦と新生児および家族の心理・社会的変化とその支援について理解する。 3. 早期産褥期の正常からの逸脱の早期発見・治療・予防・支援について理解する。 4. 新生児期の生理的变化と胎外生活への適応について理解し、アセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 5. 新生児期の正常からの逸脱の早期発見・治療・予防・支援について理解する。 6. 母子分離の際の母子と家族の理解とその支援について考える。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容並びに方法					担当教員	
1		分娩直後の褥婦の正常からの逸脱のアセスメントとケア		〔講義〕 分娩直後の褥婦のアセスメントとケアについて学ぶ。					角川	
2		産褥早期の身体的変化、心理・社会的変化		〔講義〕 産褥早期の褥婦の身体的変化、心理・社会的変化について学ぶ。(マタニティブルーや産褥精神障害を含む)					角川	
3・4		分娩直後から産褥早期に起こる異常の診断と対応		〔講義〕 分娩直後から産褥早期に起こる異常の診断と対応について学ぶ。					角川	
5		母子分離された母子と家族の理解とその支援		〔講義〕 母子分離となった母子と家族の理解とその支援について学ぶ。					角川	
6		母乳育児支援と授乳中に起こりうるトラブル		〔講義〕 母乳育児支援と授乳中に起こりやすいトラブルとケアについて学ぶ。					角川	
7		産褥期進行性変化のフィジカルアセスメント		〔演習〕 産褥期の進行性変化のフィジカルアセスメントについて学ぶ。					角川	
8		産褥期退行性変化のフィジカルアセスメント		〔演習〕 産褥期の退行性変化のフィジカルアセスメントについて学ぶ。					角川	
9・10		新生児の生理的变化と胎外生活への適応		〔講義〕 早期新生児期の生理的变化、胎外生活への適応について学ぶ。					角川	
11・12		新生児期の正常からの逸脱を踏まえた新生児のフィジカルイグザミネーション		〔演習〕 新生児期の正常からの逸脱を踏まえ、早期新生児期の正常経過のアセスメントに必要なフィジカルイグザミネーションの基本的技術を習得する。					角川	
13・14		出生直後に起こる新生児の異常の診断と対応		〔講義〕 出生直後に起こる新生児の異常の診断と対応について学ぶ。					矢田	
15		試験							角川	
教科書	「助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期」横尾京子編集、医学書院、2021年 「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改定第4版」北川眞理子編集、南山堂、2019年			参考書等	「臨床産科学テキスト」長谷川潤一、メディカ出版、2019年 「母乳育児支援スタンダード第2版」日本ラクテーションコンサルタント協会、医学書院、2015年 「新生児学入門第5版」仁志田博司、医学書院、2018年					
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」			評価方法	1. 筆記試験 (95%) 2. 学習態度 (5%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する					
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。4年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された内容だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。予習復習時間は12時間以上とする。									

授業科目	実践地域助産学		科目責任者	川野 亜津子		単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
						時間数	1 5	受講セメスター	4 年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	地域における母子保健活動の意義と実践について理解し、地域につなげるケアの基本的技術を習得する。								
	到達目標	1. 地域における母子保健活動の意義と活動の場について理解する。 2. 助産師による地域の子育て支援について理解する。 3. 退院後の母子の生活の支援について学ぶ。 4. 育児期の健康教育・保健指導に必要な基礎的技術を習得する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容並びに方法					担当教員	
1		地域における母子保健活動の意義と実際		[講義] 地域母子保健の概念と意義および、地域母子保健活動の歴史、法的基盤、助産師による様々な場での母子保健活動の実際について学ぶ。					川野	
2		退院後に向けた母子の生活の支援		[講義] 医療的ケアの必要な児の退院後に向けた退院調整および退院後の母子と家族への支援について学ぶ。					成田	
3・4		助産師による地域の子育て支援とその課題		[講義・演習] 助産師による地域の子育て支援の実際、必要性和課題について学ぶ。					藤川	
5～7		育児期の健康教育・保健指導の実践		[演習] 育児期にある母子の健康教育・保健指導について、実践的に学ぶ。					川野	
8		評価							川野	
教科書	「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」成田伸編、日本看護協会出版会、2021年				参考書等	適宜提示する。				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「助産学概論」				評価方法	1. 事後課題 (50%) 2. 課題レポート (45%) 3. 学習態度 (5%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選抜方法は別途周知する。 周産期看護実習での体験を振り返り、毎回の講義・演習に積極的に参加すること。 予習復習時間は23時間以上とする。									

授業科目	助産管理学		科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	1 5	受講セメスター	4 年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	助産師の活動に関わる管理の概念とその実際について理解し、助産師活動の場と責任について学ぶ。							
	到達目標	1. 助産管理の概要について理解する。 2. 母子に対する社会保障について理解する。 3. 助産所と病産院の助産管理の役割について理解する。 4. 災害時の助産師の役割と活動について理解する。 5. 医療事故と助産師業務について理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		助産管理の概要 医療保険制度と母子に対する社会保障制度	[講義]・助産管理の目的と概要を学習する。 ・日本の医療保険制度と母子に対する社会保障制度について学ぶ。					成田	
2		助産所の業務と管理	[講義]・助産所での妊娠・分娩管理、その役割と課題について学ぶ。 ・助産所の業務と管理および、助産業務ガイドラインについて学ぶ。					武藤	
3		産科外来と助産師外来	[講義]・助産師外来における助産師の主体的な妊婦・褥婦支援について学ぶ。					武藤	
4		病院での助産管理	[講義]・病棟における助産管理について学ぶ。 ・産科病棟、分娩棟、MFICU それぞれの機能と役割、その中での助産実践について学ぶ。					成田	
5～7		助産実践におけるリスクマネジメント (災害時の助産師の役割と活動／助産業務と医療事故)	[講義]・助産実践におけるリスクマネジメントの概要を学ぶ。 ・災害時の助産師の役割と母子ケアについて学ぶ。 ・助産業務に関連する医療事故と助産師の業務責任について学ぶ。					成田	
8		試験						成田	
教科書	「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」成田伸編、日本看護協会出版会、2021年 「助産業務ガイドライン2019」日本助産師会編集、2019年				参考書等	適宜提示する			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「助産学概論」				評価方法	1. 事後課題 (60%) 2. 課題レポート (35%) 3. 学習態度 (5%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 周産期に関連する法律・制度・看護管理を復習してから受講し、講義内容を理解して試験に臨むこと。 予習復習時間は23時間以上とする。								

看 護 学 分 野

各 看 護 実 習

授業科目	日常生活援助実習	科目責任者	小原 泉	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	1. 入院中の患者1人を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護援助を実施する。 2. 実習を通して患者－援助者関係を築き、望ましい相互作用について考察する。						
	到達目標	1. ヘンダーソンの看護理論を活用し、看護過程を展開できる。 2. 看護過程の展開から患者に必要な看護援助を立案できる。 3. 立案した看護援助を実施し、評価できる。 4. 患者－援助者関係を築き、望ましい相互作用について考察できる。						
学習内容ならびに方法								
実習期間	実習場所及び学内実習を合わせて、10日間							
実習方法	1. 実習オリエンテーションは別日程で行う。 2. 実習は、前半・後半グループに分かれて実習を行う。 3. 実習病棟は、7病棟を使用し、学生配置は、1病棟7～8名で編成する。 4. 1人以上の患者を受け持ち、看護過程を展開する。							
実習内容	1. 病棟実習の初日は、学内および病棟オリエンテーションを行う。 2. 病棟実習では、1人以上の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 3. 日々のカンファレンス、中間カンファレンスおよび最終カンファレンスは、学生主体で各テーマを決め主体的に行う。 4. 学内実習では、看護技術確認、実習記録の整理、ならびに必要な面接などを行う。 注：詳細は「日常生活援助実習要項」を参照すること。							
担当教員	基礎看護学全教員							
実習場所	自治医科大学附属病院							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「看護技術論Ⅰ」「看護技術演習Ⅰ」 「対象の理解実習」 「看護技術論Ⅱ」「看護技術演習Ⅱ」 「ヘルスアセスメント」 「看護技術論Ⅲ」「看護技術演習Ⅲ」 「看護過程演習」			評価方法	1. 事前学習課題 2. 実習目標に対する達成度 3. 実習記録物 4. 実習態度 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	事前学習課題は、看護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護過程演習、ヘルスアセスメント、人体の構造と機能で既習内容について提示する。また各実習病棟の主な疾患に関連する病態生理、アセスメント等も提示するので、しっかりと事前学習をすること。夏季休暇後の実習となるため、自己の健康管理を十分におこなって臨むこと。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。 予習復習時間は、4時間以上を必要とする。							

授業科目	周産期看護実習	科目責任者	成田 伸	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ周産期における母子とその家族への看護について学ぶ。						
	到達目標	1. 妊娠・出産・育児期にある母子とその家族の生活を理解する。 2. 入院している母子に対する基礎的援助について理解する。 3. 受持ち母子をアセスメントし、必要な看護援助を考え、看護過程を展開する。 4. 地域での看護職による母子への支援の必要性和その実際を理解する。 5. 妊娠・出産・育児期にある母子とその家族に対する支援に必要な他職種との連携と看護職の役割について考える。						
学習内容並びに方法								
実習期間	3年次前学期 1クール2週間で、全5クール							
実習方法	学生は自治医科大学附属病院または附属さいたま医療センターの産科病棟にて母子1組を受け持ち、ケース受け持ち実習を1週間行う。もう1週間は、機能別実習として、自治医科大学附属病院または附属さいたま医療センターのNICUや産科病棟・産科外来にて妊娠期・分娩期・新生児期の母子とその家族への支援実習を行うとともに、地域での育児支援実習を行う。							
実習内容	初日は、自治医科大学附属病院や附属さいたま医療センター、地域での育児支援施設での実習について、全体およびグループ毎にオリエンテーションを行う。また、周産期の母子への看護に関する技術と知識の確認を行う。さらに、本院で実習する学生は、自治医科大学附属病院での病棟オリエンテーションを臨地実習指導者より受ける。 詳しい実習内容は「周産期看護実習要項」を参照。 ケース受け持ち実習では、母子をケースとして受け持ち看護を展開すると共に、適宜ショートカンファレンスを行い、健康課題を持つ周産期における母子と家族への看護について理解を深める。 機能別実習では、様々なリスクを持つ、妊娠期・分娩期・新生児期にある母子と家族への看護について、地域での育児支援を含んで、多様な側面から学ぶ。 最終日は各自が作成したレポートをもとにカンファレンスを行い、実習における学びの統合を図る。							
担当教員	母性看護学教員 自治医科大学附属病院および自治医科大学附属さいたま医療センター 臨地実習指導者 一般社団法人栃木県助産師会（下野市を中心とした活動、助産院もりあね、さいたま助産院 担当助産師）							
実習場所	自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター 一般社団法人栃木県助産師会（下野市を中心とした活動、助産所での実習含む）、 助産院もりあね、さいたま助産院							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「周産期実践看護学Ⅰ」 「周産期実践看護学Ⅱ」			評価方法	周産期看護実習実習評価票に基づき、評価する（全体を通した実習状況、ケース受け持ち実習、実習態度） （100%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）および周産期実践看護学ⅠⅡでの学びを統合し、周産期における母子とその家族への看護について、実践を通して看護展開を学んでいく。さらに、周産期にある母子とその家族に対する支援に必要な他職種との連携と看護職の役割について、さまざまな病棟や地域での実習およびショートカンファレンス等を通して学ぶ。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。 予習復習時間として2時間以上を使うこと。							

授業科目	小児期看護実習	科目責任者	横山 由美	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ子どもの看護の展開を学ぶ。						
	到達目標	1. 入院している子どもの生活を理解する。 2. 入院している子どもおよび親・家族についてアセスメントし、必要な援助を明らかにする。 3. 入院している子どもおよび親・家族への援助を計画し実践を試みる。 4. 行った実践を評価し、さらなる看護の展開を試みる。 5. 医療チームの一員として健康課題をもつ子どもおよび親・家族に対する看護職の役割を理解する。						
学習内容並びに方法								
実習期間	2週間							
実習方法	学生は1グループ2～7名程度で、入院および外来に通院する子どもを対象に実習を行う。							
実習内容	初日は、自治医科大学とちぎ子ども医療センターでの実習について、全体およびグループ毎に実習オリエンテーション、病棟オリエンテーションおよび患者選定を行う。 各実習場所における実習内容と実習方法は、「小児期看護実習要項」を参照。 最終日は、カンファレンスを持ち、実習全体の振り返りを通して学びを統合する。							
担当教員	小児看護学の全教員（横山、田村、小西、飯島、臨時教員） 自治医科大学とちぎ子ども医療センター 臨地講師 自治医科大学総合周産期母子医療センター 臨地講師							
実習場所	自治医科大学とちぎ子ども医療センター 2A病棟、3A病棟、4A病棟、外来 栃木県立岡本特別支援学校 おおるり分教室							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「小児実践看護学Ⅰ」 「小児実践看護学Ⅱ」 ・単位取得見込みが必要な科目 「小児実践看護学Ⅲ」			評価方法	1. 実習態度 2. 実習記録物、実習課題レポート 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	生涯発達看護学概論Ⅱおよび小児実践看護学Ⅰ～Ⅲでの学びを統合し、健康障害や入院によってさまざまな状況にある子どもと親・家族に対する看護について実践を通して看護展開を学ぶ。さらに、子どもと親・家族を取り巻く保健・教育・福祉などの各組織の機能と組織間の連携・調整についてカンファレンスなどを用いて学ぶことで、医療チームの一員として健康課題をもつ子どもおよび親・家族に対する看護職の役割について学ぶ。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。予習復習時間は4時間以上。							

授業科目	成人期継続療養看護実習		科目責任者	佐藤 幹代	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	90	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族を多面的に捉え、看護師－患者関係を築く基礎的能力を養う。							
	到達目標	1. 継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族の特性を把握し、多面的に捉える。 2. 継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護について、実践を通して理解する。 3. 継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族を看護する者としてふさわしい態度、責任感、倫理観を養い、看護師－患者関係を築く資質を養う。							
学習内容ならびに方法									
実習期間	2週間								
実習方法	主に、継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族を1名以上受け持ち、看護過程を基盤に実習を行う。また、実習期間中は各種カンファレンスを通して、相互に学習を深める。								
実習内容	1. 継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族の特性を批判的な解釈をしつつ把握し、受け持つ成人とその家族を多角的な視点で捉える。 2. 実習経験や、カンファレンスでの学びを共有することを通して、継続療養上の健康課題をもつ成人と家族に必要な看護を検討する。 3. 継続療養上の健康課題をもつ成人ならびにその家族との実習経験や、カンファレンスでの学びを共有することを通して、看護師-患者の援助関係の成立・発展を体験する。 4. 継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族への看護過程を展開し、看護する者としてふさわしい態度、責任感、倫理観を養う。 *詳細は成人期継続療養看護実習要項を参照する。								
担当教員	成人看護学 学科目教員 自治医科大学附属病院 臨地講師 他								
実習場所	自治医科大学附属病院における主に成人系の病棟								
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「対象の理解実習」 「成人実践看護学Ⅰ」				評価方法	1. 実習内容、態度、目標の達成度 2. 実習記録 3. 各種カンファレンスへの参加状況及び発言内容 上記を総合的に評価する。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	看護師－患者の援助関係を築きながら、成人期にある人とその家族の特性ならびに継続療養上の健康課題の把握を通して、看護過程を展開する科目である。生涯発達看護学概論Ⅲ、成人実践看護学Ⅰの学びを活用するとともに、成人期健康危機看護実習、成人期長期療養看護実習の基盤となる実習科目である。 生涯発達看護学概論Ⅲ、成人実践看護学Ⅰの既習事項を復習の上で実習に臨み、実習期間中は自身の健康管理に留意しながら、安全・安楽・安寧を配慮した行動、倫理的態度ならびに日々の学習課題に主体的・自律的に取り組む姿勢を育成するために、日々の実習に向けた十分な予習と復習を求める。予習復習時間は4時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。								

授業科目	成人期健康危機看護実習		科目責任者	村上 礼子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	90	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培う。							
	到達目標	1. 健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人の健康の回復と生活への適応を支援する。 2. 看護師-患者関係を形成し、自らの実践を常に問いながら看護を展開する。 3. チーム医療を担う一員として、看護実践上の倫理的問題に対する気づきや考え、態度を育む。 4. 看護専門職として、先見性をもつ看護を提供するための探究的姿勢を磨く。							
学習内容ならびに方法									
実習期間	2週間								
実習方法	主に、健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族を1名以上受けもち、看護過程を活用して実習を行う。1グループは7名程度の構成とする。実習中は各種カンファレンスに参加し、相互に学習を深める。 また、高度医療を行なっている検査・治療部門で実習を展開することもある。								
実習内容	1. 健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族の特性、およびおかれている背景を理解する。 2. 健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族を対象として看護を行うために必要な情報を集め、アセスメントを行い、看護上の問題を明確にし、看護計画を立案する。 3. 立案した看護計画に基づいて、チーム医療を担う一員として看護実践を行う。 4. 成人とその家族の反応をもとに、看護計画の評価をし、立案した看護計画を修正する。 5. 各種カンファレンス（ショートカンファレンス、ケースカンファレンス、まとめのカンファレンス、チーム医療に関するカンファレンス）を行い、相互に学習を深める。 ＊詳細は成人期健康危機看護実習要項を参照する。								
担当教員	成人看護学 学科目教員 自治医科大学附属病院 臨地講師 他								
実習場所	自治医科大学附属病院における健康危機に関する主に成人系の病棟								
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「成人期継続療養看護実習」 「成人実践看護学Ⅱ」 「成人実践看護学Ⅲ」 「成人実践看護学Ⅳ」				評価方法	1. 実習内容、態度、目標の達成度 2. 実習記録 3. 各種カンファレンスへの参加状況及び発言内容 上記を総合的に評価する。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本科目は、成人実践看護学Ⅰ、成人実践看護学Ⅱを基盤に展開する実習科目である。科目履修に向け、上記の履修条件科目に加え、特に生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）、チーム医療論、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、基礎薬理学、臨床薬理学、臨床検査学、病態学概論、病態学各論、栄養学など、基礎科学分野の知識を十分復習した上で臨むこと。 実習中は、自身の健康管理に留意しながら、受け持つ成人とその家族への安全・安楽を配慮した行動と倫理的態度、日々の学習課題に真摯に向き合う姿勢を持てるよう、指導教員と学習内容を確認しつつ、主体的・自律的に学習をしていくこと。予習復習時間は4時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。								

授業科目	成人期長期療養看護実習		科目責任者	長谷川 直人		単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	90	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培う。								
	到達目標	1. 長期的な療養を要する健康課題をもつ成人の健康の回復と生活への適応を支援する。 2. 看護師-患者関係を築き、自分の実践を常に問いながら看護を展開する。 3. 看護実践上の倫理的問題に対する考えや態度を育む。 4. 看護専門職として、成人のセルフケア能力を高めるための支援をするうえでの探究的姿勢を磨く。								
学習内容ならびに方法										
実習期間	2週間									
実習方法	主に、長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族を1名以上受け持ち、看護過程を活用して実習を行う。1グループは7名程度の構成とする。実習中は各種カンファレンスに参加し、相互に学習を深める。また、患者の長期療養の支援に関わる外来・検査・治療部門で実習を展開することもある。									
実習内容	1. 長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族の特性を理解する。 2. 長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族への看護を行うために、看護師-患者関係を構築しながら必要な情報を集め、アセスメントを行い、看護上の問題を明確にし、看護計画を立案する。 3. 立案した看護計画に基づいて、成人とその家族が健康課題と向き合い、健康の回復と生活への適応に取り組めるよう支援する。 4. 成人とその家族の反応をもとに、看護計画の評価をし、立案した看護計画を修正する。 5. 各種カンファレンス(ショートカンファレンス、倫理的問題に関するカンファレンス、ケースカンファレンス、まとめのカンファレンス)に参加し、相互に学習を深める。 *詳細は成人期長期療養看護実習要項を参照する。									
担当教員	成人看護学 学科目教員 自治医科大学附属病院 臨地講師 他									
実習場所	自治医科大学附属病院における長期療養に関する主に成人系の病棟									
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「成人期継続療養看護実習」 「成人実践看護学Ⅱ」 「成人実践看護学Ⅲ」 「成人実践看護学Ⅳ」					評価方法	1. 実習内容、態度、目標の達成度 2. 実習記録 3. 各種カンファレンスへの参加状況及び発言内容 上記を総合的に評価する。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本科目は、成人実践看護学Ⅲ、成人実践看護学Ⅳを基盤に展開する科目である。科目履修に向け、上記の履修条件科目に加え、特に生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）、チーム医療論、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、基礎薬理学、臨床薬理学、臨床検査学、病態学概論、病態学各論、栄養学ほか、基礎科学分野の知識を十分に復習した上で臨む。 実習では、自身の健康管理に留意しながら、受け持つ成人とその家族への安全・安楽を配慮した行動と倫理的態度、日々の学習課題に真摯に向き合う姿勢をもてるよう、指導教員と学習内容を確認しつつ、主体的・自律的な学習活動と、実習に向けた十分な予習と復習を求める。予習復習時間は4時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。									

授業科目	老年臨床看護実習	科目責任者	浜端 賢次	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ老年期にある人の看護の展開を学ぶ。						
	到達目標	1. 疾病や治療、ケアが老年期にある人にどのような影響を与えているかを理解する。 2. 老年期にある人の発達段階、健康状態、生活史・背景、価値観などを考慮した援助の必要性がわかる。 3. 退院後の生活に向けての援助の必要性がわかり、高齢者やその家族が安心して家庭に戻れるような援助ができる。 4. 高齢者が退院後も必要な医療が継続されるように、他部門・他機関との協働の必要性を理解する。 5. 援助を実施する時には、倫理的な配慮を行う。						
学習内容並びに方法								
実習期間	実習場所及び学内での演習を合わせて10日間							
実習方法	病院実習では、疾病や治療および加齢現象が、高齢者の生活にどのような影響を与えているかを理解し、在宅療養に向けて必要な支援の実践を学ぶ。 ・自治医科大学附属病院では、高齢者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 介護保険施設実習では、認知症や加齢・疾患に伴う生活機能障害を理解し、在宅療養に向けてその人らしい生活が送れるよう、維持期のリハビリの実践や、多職種連携の実践を学ぶ。 ・介護保険施設では、入所・通所部門で実習を展開する。							
実習内容	自治医科大学附属病院 1 受け持ち患者の加齢に伴う変化、疾病や治療、心身機能、身体構造の障害レベル、生活史、入院前の生活状況、家族関係を把握し、退院後の療養生活を支援する。 2 上記を踏まえてアセスメントを行い、看護課題を特定し、エンパワーメントに着目した看護計画を立案し、意図的・体系的な看護を実践し、評価する。 3 適宜カンファレンスを行い、指導者ならびに教員と看護の方向性を確認しながら看護を展開する。さらに、受持ち患者を通じて学生相互の学習を深める。 介護保険施設 1 入所者の特徴や加齢現象、疾病や治療、認知症などから生じた生活機能障害を踏まえ、エンパワーメントに着目した高齢者と家族への支援方法を検討する。 2 多職種によるチームアプローチの実践から、看護師と多職種の役割の実践を学ぶ。							
担当教員	老年看護学全教員							
実習場所	自治医科大学附属病院（6W、7W、8W、7E、7A、7B） 介護保険施設 ・介護老人保健施設 しらさぎ荘（宇都宮市）、白楽園（宇都宮市）、かみつが（鹿沼市）わたのみ荘（真岡市）、晃南（小山市） ・介護老人福祉施設 いずみ苑（宇都宮市）、敬祥苑（宇都宮市）							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「老年実践看護学Ⅰ」 「老年実践看護学Ⅱ」 ・単位取得見込みが必要な科目 「老年実践看護学Ⅲ」			評価方法	1. 実習態度 2. 実習記録物 3. 実習課題レポート 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	これまでの講義・実習で学んだ知識・技術を想起し、高齢者の尊厳を守り、指導者・教員とともに学習内容を確認しながら、自律的・主体的に取り組むことを重視する。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。予習復習時間は4時間以上。							

授業科目	老年在宅看護実習		科目責任者	上野　まり	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	90	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ老年期にある人の在宅における生活に及ぼす影響を理解する。							
	到達目標	1. 老年期の多様な健康課題について理解し、在宅での生活をおくるうえでの健康障害について理解する。 2. 健康上の課題および健康障害を抱えながら自宅で生活している高齢者とその家族への支援方法を理解する。 3. 健康障害を抱えながら自宅で療養生活をしている高齢者とその家族を支援する保健医療福祉体制とその資源を活用した看護職の役割・機能及び援助方法を理解する。							
学習内容ならびに方法									
実習期間	実習場所および学内での演習を合わせて、10日間								
実習方法	健康障害が在宅療養生活に及ぼす影響と支援方法を理解するために、訪問看護ステーションにおいて、在宅療養者宅に訪問看護師と同行訪問し、看護観察と看護実践を行う。 学内においては、それぞれの学びを共有し、様々な訪問看護ステーションの規模、活動内容など、組織のあり方、理念、地域に期待されている役割についての特徴や違いを知り、訪問看護活動を幅広く理解する。								
実習内容	1. 訪問看護ステーション 1) 同一の在宅療養者宅（継続事例）を複数回訪問し、在宅療養者が抱える健康障害をアセスメントする。 さらに、健康障害が在宅療養者の療養生活に与える影響と家族機能をアセスメントする。 2) 訪問看護ステーションの看護活動の現状から、看護の役割と必要な看護実践について検討する。 3) 在宅療養者と家族を取り巻く現状を把握し、介護保険/医療保険制度や地域の社会資源等への関心を深め、今後の課題を考察する。 2. 学内での演習 中間カンファレンスは、グループに分かれ、実習先の訪問看護ステーションの特徴をそれぞれ発表し合い、多様な訪問看護ステーションの現状を理解する。さらに、継続事例を提示して、訪問時の様子、その後のアセスメント（継続事例の療養環境や家族、健康障害の程度、ニーズや支援など）した内容を発表・共有し、意見交換しながら、2回目の訪問看護活動における看護計画等に活かす。 また、最終日の継続事例発表会では、継続事例の健康障害・ニーズのアセスメント、ならびに立案した看護計画と実践した援助及び最終的な評価結果を発表し、意見交換する。								
担当教員	老年看護学教員・地域看護学教員　ほか								
実習場所	・訪問看護ステーション（県内15ヶ所）								
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「老年実践看護学Ⅰ」 「老年実践看護学Ⅱ」 「老年実践看護学Ⅲ」				評価方法	1. 実習態度 2. 実習記録物 3. 実習課題レポート 4. 自己評価の実施状況 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本科目の予習として、これまでの講義・実習で学んだ知識、在宅療養者への支援を継続するために必要な看護技術（バイタルサイン測定方法など）、在宅療養生活を継続するために必要な介護保険制度や訪問看護制度等を学んでおく。 実習後には、継続事例発表会で学んだ内容の復習を行い、今後の在宅看護に繋がる継続学習を行う。予習復習時間は4時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。								

授業科目	精神保健看護実習		科目責任者	永井 優子		単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	90	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	精神疾患および精神障害をもちながら生活している人とその家族を全人的に理解し、地域資源を活用して支援する方法を理解する。								
	到達目標	1. 精神障害者を生活者として理解し、精神障害が生活に及ぼす影響を理解する。 2. 精神の健康上の課題および精神障害をもちながら生活していく人およびその家族を支援する方法を理解する。 3. 精神障害を持つ人が地域資源を活用できるように援助する方法を理解する。								
学習内容ならびに方法										
実習期間	2週間									
実習方法	1) 複数のグループを編成し、実習施設の特性を考慮して、学生が自由に考え、自分の判断で工夫して、組織内外の多職種と協働する。 2) 地域で療養生活を営む精神障害をもつ人と家族を対象として担当し、対象者の状態と生活に即し、集団力動を考慮して個別および施設利用者集団の看護を実践する。									
実習内容	1) 精神および身体的な健康課題について、病態および心理社会的な環境要因についてアセスメントし、精神障害をもつ人とその家族への援助を計画・実施・評価する。 2) 精神障害をもつ人およびその家族の生活歴、それぞれの希望、そして生活上の困難と工夫を踏まえ、回復過程に応じた基本的な看護援助を計画・実施・評価する。 3) 精神障害をもつ人自身およびその家族について、生活者という視点から、利用可能な社会資源・制度等の利用と組織内外の人的資源と協働することも含めた看護計画を立案・実施・評価する。 4) 精神障害をもつ人やその家族、そして当事者組織を含めたつながりを持つ人々の精神的・身体的・社会的な健康を維持・増進する看護援助について、計画・実施・評価する。									
担当教員	永井、半澤、路川、非常勤教員									
実習場所	県内の複数の精神科デイケア施設および精神障害者が利用する通所型福祉施設									
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 ・単位取得見込みが必要な科目 「精神看護方法」 「地域精神看護方法」					評価方法	1. 実習の参加状況と学習態度 2. 対象者とのかかわり 3. 実習記録および報告の内容および提出状況 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	「地域精神看護方法」で行う本実習の記録用紙を活用した事例演習と講義内容は、本実習の準備となるため、同一年度に履修する必要がある。「生涯発達看護論」、「グループアプローチ」、「実践基礎看護学概論Ⅱ」、「精神看護方法」の復習を十分にし、実習の前および期間内に e-learning による課題を行う必要がある。本実習では、身体上の課題を併せもつ青年期から老年期にわたる幅広い年齢層の対象者を受け持つため、基礎看護学、成人看護学、老年看護学等で学んだ知識と技術を活用することになる。また、公衆衛生看護学に関する知識と技術、「老年在宅看護実習」で学ぶ内容と本実習科目の内容は関連が深く、本実習を円滑に展開するため活用する必要がある。予習復習時間は4時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。									

授業科目	公衆衛生看護実習	科目責任者	春山 早苗	単位数	4	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	180	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生看護活動の実際をとおり、看護職の役割、並びに、生活集団のヘルスニーズの把握方法とその充足のための公衆衛生の理念に基づく看護活動方法及びヘルスケアシステムづくりのための看護活動方法の理解を深め、公衆衛生看護の活動方法の基本を習得する。						
	到達目標	1. 地域・学校・職場の生活集団のヘルスニーズの把握方法とその充足のための個人・家族への援助方法の基本を習得する。 2. 地域・学校・職場の生活集団のヘルスニーズを充足するための看護活動の展開方法について理解を深め、その基本を習得する。 3. ヘルスケアシステムを整え機能させるための行政分野・学校保健分野・産業保健分野における看護職としての機能・役割や活動方法の理解を深める。 4. 行政分野・学校保健分野・産業保健分野における看護職との関わりをとおり、特定生活集団の健康生活を守るということに責任を持つ看護職のあり方の理解を深める。 5. 現在行われている看護活動から、地域・学校・職場の生活集団の健康レベルや生活の質をより向上させるための看護の課題を考える。						
学習内容ならびに方法								
実習期間	4週間							
実習方法	学生をグループに分け、栃木県内の保健所（健康福祉センター）で4日間、市町村で10日間（事前訪問実習1日間を含む）、小中学校で2日間、事業所で1日間の実習をする。 詳細は「公衆衛生看護実習要項」に示す。							
実習内容	1. 実習オリエンテーション 学内において全体オリエンテーション、並びに、実習保健所（健康福祉センター）毎、実習市町村毎、実習小中学校毎、実習事業所毎のオリエンテーションを行う。また、保健所（健康福祉センター）、市町村については実習初日に実習施設においてもオリエンテーションを行う。 2. 行政分野における看護実習 1) 保健所（健康福祉センター）実習 ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②実習保健所毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者及び教員の指導により実習する。 ③最終日には、各実習施設において4日間の実習を通したまとめのカンファレンスを実習指導者と共に行う。 2) 市町村実習 ①「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護方法論」「健康生活支援技術Ⅱ」と連動して学生各々が実習に関わる事前学習や実習のための準備を行い、実習に臨む。 ②実習期間中に各実習施設で予定されている事業や保健師活動を参考に、実習計画及び行動計画を立てる。 ③学生自身が立てた実習計画及び行動計画に沿って、実習指導者及び教員の指導により実習する。 ④最終日にはカンファレンスを行い、実習目標に対する学びを発表する。 3. 学校保健分野における看護実習 ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②実習小中学校毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者（養護教諭）及び教員の指導により実習する。 ③最終日には、各実習施設において2日間の実習を通したまとめのカンファレンスを実習指導者と共に行う。 ④学内演習において、事前学習や実習後の学習内容の整理、課題レポートの作成等を行う。 4. 産業保健分野における看護実習 ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②実習事業所毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者（産業看護職）及び教員の指導により実習する。 ③学内演習において、事前学習や実習後の学習内容の整理、課題レポートの作成等を行う。 5. 統合カンファレンス 行政分野における看護実習、学校保健分野における看護実習、産業保健分野における看護実習の全ての実習終了後、学内で統合カンファレンスを行う。学生は小グループに分かれ、保健所実習における学びを共有するとともに各分野で現在行われている看護活動に共通する課題及びその課題を改善するための方法について討議する。 6. 実習統合レポートの作成 統合カンファレンスでの学びを基に、「地域・学校・職場の各フィールドで現在行われている看護活動に共通する課題、及び、その課題を改善するための方法」について考察し、実習統合レポートを作成する。							

担当教員	地域看護学科担当教員全員、看護基礎科学科目教員全員 ・各実習グループ（実習保健所毎、実習市町村毎、実習小中学校毎、実習事業所毎）に担当教員を置く。 ・看護基礎科学科目教員は産業分野における看護実習のみ担当する。		
実習場所	1. 行政分野における看護実習 1) 保健所（健康福祉センター）実習 県西健康福祉センター、県東健康福祉センター、県南健康福祉センター、県北健康福祉センター、 安足健康福祉センター、栃木健康福祉センター、今市健康福祉センター、烏山健康福祉センター、 矢板健康福祉センター 2) 市町村実習 宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、日光市（今市保健福祉センター）、小山市、真岡市、大田原市、 那須塩原市（黒磯保健センター）、さくら市（氏家保健センター）、下野市、上三川町、益子町、茂木町、芳賀町、 壬生町、野木町 2. 学校保健分野における看護実習 下野市立小中学校（薬師寺小学校、祇園小学校、緑小学校、吉田西小学校、石橋小学校、古山小学校、 細谷小学校、石橋北小学校、国分寺小学校、吉田東小学校、国分寺東小学校、南河内中学校、 南河内第二中学校、石橋中学校、国分寺中学校） 3. 産業保健分野における看護実習 （株）キャノンメディカルシステムズ、（株）沖電気工業 本庄工場、（株）沖電気工業 富岡工場、 （株）TKC、（株）キャノン 宇都宮事業所光学技術研究所、（株）小松製作所 栃木工場、 （株）SUBARU 航空宇宙カンパニー		
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」 「日常生活援助実習」 「健康生活支援技術Ⅰ」 ・単位取得見込みが必要な科目 「健康生活支援技術Ⅱ」 「公衆衛生看護活動論」 「公衆衛生看護方法論」	評価方法	出席状況を前提に、実習担当教員が、実習態度、実習記録物の提出状況、自己評価の実施状況、実習目標の到達度を総合的に評価する。その後、科目責任者が確認し最終評価する。詳細は「公衆衛生看護実習要項」のとおり。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	「実践基礎看護学概論Ⅲ」で学習した公衆衛生看護の目的と原則等、並びに、「健康生活支援技術Ⅰ」で学習した保健指導技術及び家族相談援助論を、よく復習して臨むこと。直前の「公衆衛生看護活動論」と「健康生活支援技術Ⅱ」の学習内容、並びに、実習市町をフィールドとして演習する「公衆衛生看護方法論」も、本実習をする上で非常に重要である。 「公衆衛生看護実習要項」に記載されている事前学習に取り組んだ上で実習に臨み、本実習による学びを復習しながら、4年次の「行政看護管理論」及び「地域健康危機管理論」において、さらに学びを深める。予習復習時間は8時間以上。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。		

授業科目	助産学実習		科目責任者	川野 亜津子	単位数	8	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	360	受講セメスター	4年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	周産期の母子と家族を支援するための助産実践の基礎的技術を習得し、助産業務について理解する。							
	到達目標	1. 出産・育児に向けた妊娠中の健康教育・保健指導について学ぶ（集団指導・個別指導）。 2. 出産に向けた一般外来・助産師外来での妊婦管理について学ぶ。 3. 分娩進行中の産婦・胎児および出生直後の新生児のアセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 4. 分娩期に必要な看護・助産技術および基礎的な分娩介助技術を習得する。 5. 早期産褥期・早期新生児期の母子と家族アセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。							
学習内容並びに方法									
実習期間 実習方法	8週間 1. 妊娠期実習 1) 妊娠期外来実習（一部助産師外来）…妊婦健診に参加し、妊婦のアセスメントの基礎的技術を学ぶと共に、妊婦とのかかわりについての実際や必要な支援について考える。 2) 妊婦健康教育実習（出産準備教室）…妊娠週数に応じた集団指導での健康教育を見学し、その支援について考える。 2. 分娩・育児期実習 1) 分娩期実習…分娩入院した産婦を受け持ち、分娩期にある母子とその家族に必要な基礎的助産活動を展開する。直接介助を行う受け持ちは9ケース以上とする。うち1ケースは産褥・新生児期までの継続ケースとする。 2) 新生児期実習…間接介助として出生直後の新生児ケアを行う。そのケースについては、できるかぎり、出生後2時間および出生後24時間の観察・評価を行う。 3) 母子の継続実習（継続ケース） ①入院中の母子受け持ち実習…「分娩期助産実習」で受け持ったケース（褥婦、新生児）のうち1ケースを継続して受け持ち、入院中の母子に必要な基礎的援助活動を展開する。 ②退院後の母子受け持ち実習…「入院中の母子受け持ち実習」で受け持ったケース（褥婦、新生児）を継続して受け持ち、退院後1～2週間の時点での外来での支援あるいは家庭訪問、産後1ヶ月健診（可能ならば新生児1ヶ月健診も）の実習を行い、新生児・乳児を養育する家庭における母子とその家族に必要な基礎的援助活動を展開する。 4) 帝王切開術およびその前後の母子のケア実習…帝王切開術を受ける母子に行われるケアを見学し、その状況を理解すると共に、母子とその家族に必要な支援について考える。 3. 地域を中心とした実習の概略 助産所実習…地域で開業する助産師の活動を見学し、その実際を学ぶ。								
実習内容	周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児期）の助産師の役割、ケア・健康教育の意義と方法、助産過程の展開について学び、助産技術の基本的実践を習得する。								
担当教員	母性看護学教員								
実習場所	自治医科大学附属病院産科病棟・外来、自治医科大学附属さいたま医療センター ことり助産院、マザーズヘイブン佐藤助産院								
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「基礎助産学Ⅰ」「基礎助産学Ⅱ」「基礎助産学Ⅲ」 「実践助産学Ⅰ」「実践助産学Ⅱ」「実践助産学Ⅲ」 「実践地域助産学」「助産管理学」				評価方法	助産学実習最終評価票に基づき、評価する（全体を通した実習状況、ケース受け持ち実習、実習態度） （100%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選抜方法は別途周知する。 分娩介助実習の進行状況により、延長実習があり得る。長期間の実習で負担も大きい、高い知識と技術を獲得できる。これまでの学びを総括する実習であり、関連する科目の復習を同時進行で行う。教員、臨床教員、臨地実習指導者、臨床スタッフ等の支援があつて成り立っており、適時助言・指導を得ながら、進めていくようにする。 実習開始にあたっては、分娩介助の技術チェックを学内で行う。予習復習時間として2時間以上を使うこと。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。								